

・景気の先行きに対する判断理由

景気の先行きに対する判断の理由について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連	良くなる	家電量販店（店長）	・今夏の洞爺湖サミットによる省エネ対策や北京オリンピックに伴う需要が見込まれる。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・2～3か月先はバーゲン月であり、今、買い控えられている商品がバーゲン時に購買されることが見込まれる。
		スーパー（店長）	・前年度にはなかったグループ企業での販促戦略により、4月の売上が伸びているので、今後についても期待が持てる。
		スーパー（店員）	・専門学校の入学シーズンと重なったこともあるが、今月の現金ポイントカードの入会者がかなりの数になっている。地域の平均世帯数が1.3人と単身者の多い地域でもあるので、今後の売上の増加が見込まれる。
		コンビニ（エリア担当）	・来客数が回復傾向にあるため、5月からのタスポ導入の影響でたばこを中心とした売上増加が見込まれる。
		コンビニ（エリア担当）	・5月からのタスポ導入の影響で、たばこ購入者が増加することで、一層の来客数増加が見込まれる。ただし、ガソリン価格が元に戻れば、今まで以上に家計費支出における負担感が増すため、消費抑制につながる可能性もある。
		旅行代理店（従業員）	・海外旅行は燃料サーチャージの影響はあるものの、高額商品が支持されていることから、今後については良くなる。
	変わらない	商店街（代表者）	・天気が良くなったり、大型店で物産展が開催されるなどの一過性の要因で、一時的に売上が確保できることはあるが、商店街への来街の多い高齢者は生活防衛に入っていることから、今後についても厳しいまま変わらない。
		百貨店（売場主任）	・4月に入って様々な商品の値上げが相次いでおり、更に5月からはガソリン代も再び上がることから、客の財布のひもが固くなることが見込まれる。ただ、6月にかけて暖かい日が続くということなので、夏物商戦には期待できる。
		百貨店（販売促進担当）	・消費者心理が冷え切っている。客の買い方を見ても、価格面でのチェックが厳しく、金銭の支出に非常に慎重になっていることから、今後、単価が上昇するとは考えにくい。
		家電量販店（経営者）	・洞爺湖サミット、北京オリンピックを控えているが、先行きは不透明である。景況感が悪いので、客も大型の買物を控えている傾向がある。
		家電量販店（地区統括部長）	・北京オリンピック開催に伴い、薄型テレビを中心としたAV商品の需要が期待されるが、その反面、冷蔵庫や洗濯機といった白物家電の需要の落ち込みが懸念される。一方、エアコン等の季節商品は、今後の気候次第であり、推測が難しい。全体としては前年とほぼ変わらない需要が見込まれる。
		高級レストラン（スタッフ）	・景気が良くなる兆候が見当たらない。テレビを見てみると、財布のひもが固くなるようなニュースが多く、消費動向に水を差しているように感じる。年金問題や高齢者の医療制度など、次々に「高級レストランに行かないように」と呼びかけているかのようにも聞こえてしまう。また、女性客の服装も春色が少なめで暗めの色使いのものが多く、ルンルン気分が高級レストランへ行く状況でないことも想像できる。
		観光型ホテル（経営者）	・洞爺湖サミット、北京オリンピックが北海道観光にプラスになるかどうかは全く分からない。旭山動物園効果も、札幌などの道央圏での宿泊にシフトしつつあり、地元への恩恵が薄らいできている。
旅行代理店（従業員）		・悪化する理由は思いつくが、良くなる理由が思うように浮かばない。洞爺湖サミットを控え、旅行自粛、風評被害が心配される。サミット終了後に好転に向かえば問題ないが、当面はマイナス効果が続くことが見込まれる。観光業、旅行業にとっては夏の観光シーズンに入るとは言え、経営的に厳しい状況を覚悟しなければならない。	
タクシー運転手	・5月からガソリンの暫定税率が復活しそうなことから、自家用車の乗り控えが進み、タクシーの需要増加が期待される面もあるが、例年、売上の落ちる時期でもあるので大きな期待はできない。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	やや悪くなる	美容室（経営者）	・食品を始めとして様々な商品の価格が上がっていることから、今後の消費意欲が大きく変わることはない。当分は現状維持の状態が続いていく。
		住宅販売会社（従業員）	・例年に比べて、春先の客足が非常に悪いことから、今後については、住宅業界全体が苦しい展開となる。
		スーパー（店長）	・ガス代、電気代などの公共料金の値上げが行われることから、生活防衛感が強まる。
		スーパー（企画担当）	・暫定税率の復活によるガソリン価格の再値上げや今後予定されている様々な食品の値上げなど、消費意欲を向上させるような要因がみられない。
		スーパー（企画担当）	・4月に入ってから客1人当たりの買上点数が低下しており、全体の売上も軟調に推移している。価格上昇に対する生活防衛的な消費行動が徐々に強まっていることがうかがえ、今後についてはやや厳しくなる。
		スーパー（役員）	・日曜等の朝市でかなり商品を安く販売しているが、現時点では、安くとも買い控えする動きがみられる。ガソリンの値上げや様々な商品の値上げが影響しており、今後についてはやや悪くなる。
		コンビニ（エリア担当）	・ガソリンの暫定税率の復活、円高、資源の高騰、更には高齢者の医療制度の影響から、消費者は厳しい家計のやりくりとなっていくため、今後においては食費を中心に支出を抑えていくことになる。
		乗用車販売店（従業員）	・暫定税率の取りやめの影響で、4月は自動車取得税やガソリン税が軽減されていたが、5月からは暫定税率が復活するので、更に厳しい状況になる。
		一般レストラン（スタッフ）	・高齢者の医療制度のスタートに加え、ガソリンの暫定税率が再び適用されることが確実となり、今後については、ますます消費マインドが冷え込む。
		観光型ホテル（スタッフ）	・ガソリン税を巡る問題など、消費者を不安にさせるような話題が多いことから、宿泊やレストランにおける高額消費は今後も伸びない。
		タクシー運転手	・規制緩和以降、タクシーの台数が増えているが、景気の影響で利用客は減少しており、タクシー1台当たりの売上は大きく減少している。最近は様々な物価が上がってきていることもあり、今後、タクシーの利用はますます減少する。
		タクシー運転手	・原油の高騰、食品の高騰によるスタグフレーションが懸念され、タクシー利用にも影響を与える。
		観光名所（役員）	・ゴールデンウィークの観光客も今一つであり、洞爺湖サミットも交通規制の影響が懸念される。その後に北京オリンピックも控えており、道内観光にとっては当面プラス材料がなく、先行きについてはかなり厳しくなる。
		観光名所（職員）	・洞爺湖サミットや北京オリンピックなどに加えて、物価高騰の影響で、今後については外国人観光客、国内旅行者とも減少する。
悪くなる	一般小売店〔土産〕（経営者）	・生活必需品に加えて、電気やガス等の料金も値上がりすることになり、買物客が減少することになる。	
	コンビニ（オーナー）	・洞爺湖サミットの規制がかなり激しくなるため、人の動きがかなり鈍くなる。観光客への規制もかなり厳しくなるとの噂を聞くので、サミットの前後の景気は非常に悪くなる。	
	旅行代理店（従業員）	・ゴールデンウィークの受注の出足が非常に遅かったことから、今後についても厳しい状況が見込まれる。	
	設計事務所（所長）	・様々な商品の値上げの影響で、住宅に対する意欲は完全に後回しになっている。店舗関係についても、売上の低迷から設備投資は望めず、今後については厳しくなる。	
企業動向関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	食料品製造業（役員）	・原材料の高騰に伴う価格改定に関しては、遅いスピードではあるが、少しずつ応諾をもらっている状況であり、2～3か月後には改善していることが期待される。
		建設業（経営者）	・暫定税率取りやめの影響で道路工事の発注が遅れているが、今後は公共、民間工事共に受注が本格化する。単価、量的には相変わらず厳しいままではあるが、順次、工事に着手し始めることで、人、物、金の動きが活発になる。
変わらない		輸送業（経営者）	・依然として燃料の負担増や値上がりが続いていることから、景気が良くなることは期待できない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金融業（企画担当）	・洞爺湖サミットの開催により観光関連産業は幾分持ち直す。しかし、各業種は原材料価格の値上がりなどで収益環境が厳しく、賃上げや夏季賞与も抑制される。食品やガソリン価格などの生活必需品の上昇もあり、個人消費は弱めで推移する。
	やや悪くなる	食料品製造業（団体役員）	・原油価格の高騰、暫定税率の復活によるガソリンの再値上げ等の影響が見込まれることから、中小企業の経営は更に悪化する。
		輸送業（支店長）	・土木関連で需要がストップしているケースが地方で出てきており、2～3か月後に、それらの企業の信用不安が発生することが懸念される。また、燃料や資材の高騰が価格に十分転嫁されていないため、経営の悪化、更には倒産の多発も懸念される。
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	・鋼材等の値上がりや中国需要の急進を背景に、仕入価格の値上がりと販売価格の低下が起こっている。こうした状態が続くと、徐々に企業の体力が衰えることになる。
	悪くなる		
雇用関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	学校〔大学〕（就職担当）	・企業の採用意欲がおう盛であることから、今後については良くなる。ただし、就職活動に積極的な学生と消極的な学生の間大きな差があり、学生の就職率が上昇するとは限らない。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・各企業も業績回復に向けて打つ手がなく、あきらめムードがまん延しており、採用意欲が盛り上がらない状況が続く。
	やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・求人数や採用数が今月に入って大きく落ちていることから、今後については厳しくなる。
		職業安定所（職員）	・食料品製造業、卸小売業、事業サービス業で新規求人数の減少がみられる。求人数の減少方向に歯止めが掛かっていないため、今後については厳しくなる。
	悪くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・道外の景気が落ち込めば、道外の業務請負、派遣やコールセンターなどの求人も減少に転じる可能性があり、求人件数は更に低水準となる可能性もある。

2. 東北（地域別調査機関：（財）東北開発研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	コンビニ（経営者）	・5月からたばこの自動販売機にタスポが導入されるが、客に聞いてもタスポの登録者はまだ少なく、先行地域の例からしても自動販売機の客が多く流れてくる可能性が高い。また、来客数、売上もプラス傾向になってきている。
		コンビニ（経営者）	・来客数が徐々に増えてきているが、今後は観光客の増加も見込まれる。
		家電量販店（店長）	・天候にもよるが夏場に向けてのエアコン、オリンピックに向けての大型テレビなどに動きが出てくる。ただし、単価は低下傾向であることから、それに見合う台数の販売が求められている。
		乗用車販売店（経営者）	・暫定税率問題が決着すれば落ち着きを取り戻す。また6月以降のモデルチェンジも買い控えが続いた需要を喚起する。
		高級レストラン（支配人）	・予約状況は従来よりも増加傾向にあり、良い方向に向かう。ホテルの宿泊者の増加に伴う来客数の増加も想定され、特に朝食については摂取率も高いため期待できる。
		住宅販売会社（従業員）	・計画的な受注が進み、業績が非常に悪かった前年はもちろんのこと、一昨年と比較しても上積みが見通しとなっている。
	変わらない	商店街（代表者）	・景気を押し上げる特別な要素も無く、消費は引き続き低調に推移する。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・市街地では祭りなど大きなイベントが予定されているものの、その参加者、見学者が繁華街に流れてくることは例年も少なく、売上の状況はあまり変わらずに推移する。
		一般小売店〔カメラ〕（店長）	・写真業界ではフィルム現像の減少をデジカメプリントで補おうとしているが、金額ではなかなか追いつかない。客の取り込みを更に強化しないと前年実績を下回る可能性が高い。
		百貨店（営業担当）	・ガソリンの暫定税率も復活する見込みであり、様々な商品や原材料価格の値上げも止まらないなど、消費環境が良くなる感触は無い。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（店長）	・原油高の影響と暫定税率の復活でガソリン価格がまた値上げになることなど、先行きが不安定であり消費が改善することはなく、買上点数の減少傾向などは変わらずに推移する。メーカー商品の値上げのほか、トレイなど資材の原価上昇の影響もある。
		コンビニ（店長）	・5月からガソリン価格が上昇すれば一般消費者の節約ムードは高まるものの、建設関係の客が戻れば全体としての影響は少ない。タスポの導入により、たばこの購入者がコンビニに流れてくるという先行地区のデータもあり、あまり悲観的にはなっていない。
		衣料品専門店（店長）	・賃金のベースアップが幅広く実施されれば消費マインドも高まると思われるが、現状でそれは見込めない。一方で物価上昇が続いているため、厳しい消費動向が続く。
		乗用車販売店（経営者）	・新型車が投入される予定であるが、車格が大きく、燃費を気にする客が多いため反響は不透明である。5月以降のガソリン価格によっては市場も大きく変動する。
		その他専門店〔化粧品〕（経営者）	・将来の生活に対する不安や、政治、経済に対する不安がまだ大きく、景気が順調に回復する期待は持ちにくい状況である。
		その他専門店〔食品〕（経営者）	・百貨店の催事にも参加しているが、新商品を投入している有名店でも前年売上の維持が精一杯の様子では、今後に大きな期待はできない。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・夏の中元商戦に向け様々な取り組みを行い、少しでも景気回復を図ろうとは思いますが、どこまで消費者がついてきてくれるのか不安はぬぐい去れない。来月以降も景気回復を実感できる可能性は極めて低い。
		一般レストラン（経営者）	・予約の状況は前年に比べて少なくなっており、見通しは悪い。
		観光型ホテル（経営者）	・5、6月の入込は前年を8%程度上回るが、7月以降は平年並みかやや悪い。日帰り客は相変わらず好調であるが、売上に与える影響は小さい。
		タクシー運転手	・ガソリンなど石油価格が安定していないことや、高齢者の医療制度に対する不安を口にする客もいるなど、景気が良くなるような材料は無い。
		美容室（経営者）	・低調な状況がずっと続いているが、景気が良くなる材料が見当たらず、しばらくは現状のまま推移する。2、3か月後に選挙が行われるようなことがあれば、景気に影響する可能性がある。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・全体的に資材、原材料の高騰が徐々に影響してきており、今後ますます増大する懸念がある。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・ガソリンも再び値上げになるなど物価の上昇に加え、高齢者の保険料が年金から天引きされるようになった影響もあり、買い控えの傾向はますます強くなる。
		一般小売店〔雑貨〕（企画担当）	・ガソリン価格が元の高水準に戻ることににより、動きは悪くなる。年金、医療制度の問題などで消費の手控えが発生してくる。
		百貨店（売場主任）	・客は更に生活防衛を図ってくる。ジャストシーズンの需要しかなく、クリアランス待ちの客が多くなる。
		百貨店（経営者）	・現状の消費環境の弱さに加え、来月以降は暫定税率が復活しガソリン価格が再び上昇することから、消費はもう一段の縮小がある。
		百貨店（経営者）	・食料品の値上げやガソリン暫定税率の復活など、先行きは不安感が多い。
		スーパー（経営者）	・パートが集めやすくなってきている。他業種の雇用が弱くなってきており、消費を抑える傾向が感じられる。
		スーパー（経営者）	・4月に下がったガソリン価格が暫定税率の復活でまた大幅に上昇することに加え、他の分野でも物価上昇傾向は続くこととみられるが、個人の収入は変わらないことから心理的にはますます冷え込んでくるため、厳しい予測をせざるを得ない。
		スーパー（店長）	・相次ぐ商品値上げにより一品単価は上昇したが、買上点数が大幅に減少という傾向となっている。5月のガソリン再値上げにより、食料品支出への影響が心配される。
		スーパー（店長）	・ガソリン価格の上昇が各方面に影響するため、ゴールデンウィーク後に消費が冷え込む可能性がある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（店長）	・農業が盛んな地域であるが、最近の農業はガソリンなどの燃料使用も多いため、価格上昇は農家経営にも大きく影響する。そのため食費の支出が抑制されるなど、スーパーの景気にも悪影響を与える。
		スーパー（総務担当）	・5月以降は暫定税率の復活によるガソリン価格の急騰、電気、ガス料金の上昇、社会保険料の負担増、及び食料品の価格上昇などが消費者の購買意欲を減退させる要因となる。また、政治の混迷に伴う公共事業の発注遅れ、金融機関の不良債権処理なども景気の減速に拍車を掛ける。
		コンビニ（エリア担当）	・ガソリン価格が5月以降再び上昇すれば、少なからず消費に影響すると危惧している。5月は連休の期間中にどれだけ売上を伸ばせるかに掛かっている。
		衣料品専門店（経営者）	・高齢者の医療制度や原油高に伴うガソリン高が景気が良くなりそうな芽を摘んでしまうため、今より少し悪くなる。
		衣料品専門店（総務担当）	・原材料高に伴う影響が各方面に出ており、個人消費は低迷する。
		乗用車販売店（経営者）	・諸物価の高騰、なかでも暫定税率の復活によるガソリン価格の高騰が予想されているが、客の声からすれば給料は伸び悩んでいるとのことであり、買い控えは深刻になる。また、企業の3月決算も多くは減益が予想されており、個人需要だけでなく法人需要も低迷する。
		乗用車販売店（経営者）	・暫定税率が再び課税されるようになれば、ガソリン価格は仕入価格の上昇も合わせ1リットル当たり30円程度の大幅値上げになると言われている。そうなれば消費者の財布のひもはますます固くなり、車両整備でも客の要求は厳しくなる。
		乗用車販売店（従業員）	・暫定税率が復活することにより車両購入時の税負担が大きくなることに加え、ガソリン価格なども上がり、家計支出が多くなる。
		自動車備品販売店（経営者）	・地域には建設関係に限らず販売不振による倒産及び廃業予備軍がかなりいる。また、暫定税率の復活でゴールデンウィーク中の遠出が控えられるほか、白鳥の鳥インフルエンザが、観光や養鶏業者に風評被害を与える可能性も多分に考えられる。6月の全国植樹祭では来県者が幾分増えるが、景気を改善させる影響力は無い。
		住関連専門店（経営者）	・暫定税率問題での混乱もあり、消費拡大にはつながらず、耐久消費財の販売は落ち込んでいく。
		その他専門店〔パソコン〕（経営者）	・一握りの勝ち組だけに仕事が回っているような話が聞かれるが、ほとんどの業者は仕事が取れない状態である。社会全体のお金の流れが悪く、消費者の財布のひもが一層固くなっていく。
		その他専門店〔酒〕（営業担当）	・5月は例年大幅増が見込める時期ではないが、政治が不安定な状況も影を落としている。景気の先行きにはより一層の不透明感がある。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・5月に暫定税率が復活すれば30円近い値上がりとなるため、客の買い控えはますます深刻になり、不満も高まるため景気は悪い方向に向かう。
		一般レストラン（スタッフ）	・4月はガソリン価格が一時的に下がったにもかかわらず需要は伸びなかったが、今後暫定税率が復活して5月以降再び上昇すること、加えて電気、ガス代なども値上がりすることなど、消費者の財布のひもはますます固くなる。
		その他飲食〔弁当〕（スタッフ）	・食料品は、小麦などの原材料価格が上昇しているため、販売価格も上げざるを得ない。これが売上を悪い方向に導くこととなる。
		観光型旅館（経営者）	・前年比でのマイナス基調は今後も継続するものとみている。ただし、インターネット予約に関してはホームページの改訂効果もあり、予約数で20%強、金額で30%強の増加となっている。これらも考慮して隣県や地元の需要対策を強化していく。
		観光型旅館（経営者）	・ガソリンや灯油、重油の値上げが経営コストを直撃している。また、物価全体が上昇しており利益を圧迫してきている。来客数も漸減傾向であり、景気の後退感が強くなり始めている。
		都市型ホテル（経営者）	・5、6月は各種団体の総会シーズンであり前年並みの予約件数を得ているものの、企業倒産による加入者の減少などの影響で利用人数については5～10%も減少するという見込みもあり、売上は減少する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		都市型ホテル（スタッフ）	・企業の撤退が相次いでおり、それに伴い協同組合が解散に追い込まれるなどしており、本年の総会シーズンは宴会部門での落ち込みがひどいものとなる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・市内のパイオニア的存在だった老舗ホテルが、4月より大手外資系ホテルの系列になるなど、新規ホテルの参入と相まって競争がますます激しくなる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・営業活動の状況は、政治の混乱、諸物価の値上がりなどもあり、前年並みの販売量を確保するためにはかなりの努力が必要となっている。個人消費が伸びることはあり得ないとみており、厳しい情勢となる。
		旅行代理店（従業員）	・原油高に伴う物価の上昇が続き、今後も家計支出に影響することから、旅行に関しては上向き要素が無い。
		旅行代理店（従業員）	・現在の受注状況からすると、前年実績をキープするのは厳しい。
		通信会社（営業担当）	・5月からのガソリン暫定税率復活も決定し、ますます厳しい状況となる。景気回復の要因が全く無い。
		観光名所（職員）	・ここ数年は団体客の減少を予約の無いフリー客の増加で補ってきたが、ここにきてフリー客も減少傾向に転じていることから、今後上昇する見込みは無く悪化する。
		遊園地（経営者）	・諸物価の値上がりにガソリンの暫定税率復活が加われば、消費者の家計に大きく響く。
	悪くなる	商店街（代表者）	・高齢者の医療制度の導入は、ただ一筋の光明であった「豊かな高齢者階級」の消費を減退させる。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・年金問題や医療費の問題で老後が心配になり、これからますます辛抱の生活になる。
		百貨店（販促担当）	・生活必需品の値上げなどに加え高齢者の医療制度で保険料が年金から天引きされるようになり、財布のひもは更に固くなる。
		スーパー（経営者）	・この先も様々な商品が軒並み値上がりする。また、ガソリン価格や電気、ガスなどのエネルギーコストも上がるが収入は増えないため、客の買上個数、買上単価が低迷するのは確実な情勢である。
		スーパー（経営者）	・原油高が更に進行しており、それに伴い様々な商品の値上げも予想されるが、消費者が値上がりした商品を買ってくれるかどうかは不透明である。
		スーパー（店長）	・商品の値上げにより販売量が落ち込んでいる状況にあるが、5月以降のガソリン価格の上昇により一段と節約志向が高まる。
		スーパー（店長）	・7月には当店から約1キロメートルの圏内に競合店が出店することが決定したため、売上、来客数に影響がある。
		コンビニ（経営者）	・サブプライムローン問題、暫定税率の問題、年金の問題など、不安感が高まっているが、収入増により家計が潤うような兆しは無く、景気は悪くなっていく。地方でも中央資本の進出が相次いでいるが、途中で開発を中止するようなケースもあり、雇用の改善につなげていない。
		コンビニ（経営者）	・身の回りの商品がどんどん値上がりしているが、5月からはガソリン価格が30円以上も上がることもあり、景気は悪くなる一方である。
		コンビニ（経営者）	・商品の価格は今後も値上げが予定されている物が多く、また、ガソリン価格がまた上昇するなどの影響もあり、客の買い控えがある。
		衣料品専門店（経営者）	・生活防衛型の購買行動に合わせ単価の引下げを考慮しているが、それに見合う販売数量の増加は難しい情勢である。
		衣料品専門店（店長）	・数か月後にはボーナス支給の時期を迎えるが、40代、50代の客を中心にしている業態では、支給額増減のうわさなどが商戦を大きく左右する。このままの市況が続けば、ボーナス商戦は厳しいものになる。
		その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕（営業担当）	・ガソリンがまた上がることが、あらゆる方面に影響する。夏場にかけて商品がどれだけ動くか懐疑的にみており、動くとしても単価の安い物に限られる。
		一般レストラン（経営者）	・安い時には1.8リットル3,700円だった天ぷら油が、今は5,000円、しょう油は1,800円が2,300円になるなど、すべての原材料費が上昇している。このような物価上昇が傷口に塩をすり込むように効いて、景気は悪い方向に向かっていく。
		一般レストラン（経営者）	・5月からガソリンがまた値上がりするなど、景気が良くなるような要素は全く無い。政府は景気を後退させたいのかと疑いたくもなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	建設業（経営者）	・物価の上昇が落ち着いてくれば、気候的にも良くなっていくので、受注が回復してくる。
	変わらない	農林水産業（従業者）	・海外では米の価格が高騰しているが、国内での米価格の上昇にはつながっていない。今後も米価格の上昇は期待できない。
		食料品製造業（総務担当）	・穀物相場への投機的資金の流入で原料価格の上昇が続き、一方で消費の増加は期待薄であるため、売上低迷と収益性低下の傾向が続く。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・例年売上が少なくなる時期でもあるが、これまでの売上の推移からしても期待を持てる状況ではない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・景気の不透明感が強まるなか、資源高が恒常化し今後のものづくり業界は混沌としている。企業体質の強化のためより一層の「選択と集中」にまい進し、社内体制の見直しと顧客情報のいち早い収集で、マイナス幅をいかに小さくするかが今後の課題である。
		輸送業（従業者）	・取扱件数が横ばいの状態で、新規案件が見当たらない。既存の荷主は輸送の見直しを図り、代理店の変更や輸送ルートの変更などを検討している模様である。
		広告代理店（経営者）	・印刷用紙代やインク代など、原材料価格の値上げにより利益が圧迫されているものの、価格転嫁できない価格レベルで受注競争をせざるを得ない。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	・折り込みチラシの好調は今後も続くものとみられるが、消費者すなわち購読者の声からは明るい感触が得られず、総合的には変わらない。
		コピーサービス業（経営者）	・コピーサービス部門では新しい設備を導入し、新分野への進出を画策している。業界は変革の時を迎えているとの認識に立ち、業態も多少は変化させながら、新市場の開拓に向けてやる気と希望をもって挑戦していく。
	やや悪くなる	食料品製造業（経営者）	・コストアップ要因は多いが、売上が大きく増える要素は無く、収支面で厳しくなる。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・ガソリンの暫定税率が期限切れになりコストが下がったが、またすぐ上がるということでは精神的ダメージが大きく、景気を前よりも悪くするのではないかと懸念される。
		建設業（従業者）	・ガソリン暫定税率の期限切れで官公庁事業の発注が停止されており、今後の動きによっては建設投資そのものの減少が見込まれる。
		建設業（企画担当）	・製造業の東北への進出や設備投資計画が多く表面化しているものの、一方で鋼材価格の高騰を始め建設物価は急激な上昇圧力にさらされており、価格転嫁が大きな課題となっている。先行きの仕事量がみえてきたことはプラスであるが、物価上昇の影響が計り知れない状況である。
輸送業（経営者）		・再可決により軽油引取税の暫定税率が再開されれば、原価の上昇と合わせ大幅な値上げになることから、業界はますます厳しい状況になる。	
金融業（融資担当）		・原油高、穀物相場上昇による物価上昇に加え、ガソリン暫定税率の復活、高齢者の医療制度導入に伴う個人消費減退により、国内最終需要の減少がある。	
広告業協会（役員）		・大手は本社とのネットワークにより広告取扱量が増加傾向にあるものの、地元の広告会社は今後ますますの苦戦が予想される。9月にオープンする2つの商業施設の動向に期待している。	
経営コンサルタント		・ガソリン税の暫定税率などを巡る政治混乱が消費全体を冷やす懸念がある。	
その他非製造業〔食料品卸売業〕（経営者）		・ガソリン価格や食料品価格の上昇は一般消費者からは厳しく受け止められており、購買意欲の上昇につながらない。少子高齢化の進展とともに、その傾向は強まっていく。	
悪くなる		出版・印刷・同関連産業（経理担当）	・建設業を始め、地方では地場産業の業績悪化が顕著であり、倒産件数も増えていく。
	一般機械器具製造業（経理担当）	・急激な円高に伴う輸出環境の悪化に加え、原材料費のアップ、原油価格高騰に伴う物流費の上昇、日米における自動車販売の不振などが影響し、営業利益は大幅なダウンが見込まれる。	
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・2年後に予定されている大規模工場の進出に関連して、不動産関係などの業種では人材募集が始めているなど、この先の活性化に期待が持てる状況になっている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・低迷している青森、岩手、秋田だけではなく、宮城、山形、福島についても2、3か月先までの見通しに好材料は無い。
	やや悪くなる	職業安定所（職員）	・中央の金融機関の不良債権処理は一段落した感があるが、地方の金融機関はこれから不良債権処理を進めていくという話もあり、貸し渋りによる倒産が増える。
		職業安定所（職員）	・建設業では、公共工事の減少から事業規模縮小するため人員整理する事業所がみられる。
		職業安定所（職員）	・紹介期限が到来する求人者において、引き続き求人の更新を希望する者が減少している。
	悪くなる	人材派遣会社（社員）	・注文件数、及び新規登録者数の減少傾向は、4月の一過性のものではないような気配である。
		職業安定所（職員）	・原油高に伴うコスト上昇が、雇用にも影響する。

3. 北関東（地域別調査機関：（財）日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	-	-
		コンビニ（経営者）	・これからは家族連れやグループなどのまとめ買いの客が多くなる。
		乗用車販売店（営業担当）	・久しぶりに新型車の投入があり、来場者数の増加が望める。
		一般レストラン（経営者）	・食材の値上がりによる自店への影響は徐々に響いているものの、地域の客の動きが今のところ、どこに行っても良い。
		通信会社（営業担当）	・来月以降、ガソリン価格の高騰等で消費は落ち込む方向にあるが、6月のボーナスでオリンピックに向けデジタル家電の需要が拡大する。
	変わらない	一般小売店〔家電〕（経営者）	・価格が安定しない限り家電製品等の購入は見込めない。アナログ放送停止とは言われているが、デジタル機器の買い急ぎもなく、修理をするなら仕方なく買い換えるケースが多い。購入意欲、消費者動向が見えないので先行きは厳しい状況である。
		百貨店（販売促進担当）	・消費行動におけるファッション衣料、服飾品等のプライオリティは依然として低く、生活必需品以外の消費は引き続き慎重である。
		コンビニ（店長）	・現在のような状況が続く。若者が店にいる姿がまるで見えなくなっている。特に深夜は閉めた方が良くらい暇である。
		乗用車販売店（販売担当）	・来客数が減少していることは事実である。2～3か月先もそれほど上向きにならず、だいたい現状程度だと思われる。
		乗用車販売店（営業担当）	・月の半ば過ぎまでは少し出ている商談件数も、20日を過ぎてからは無くなった。客の動きも鈍い。
		自動車備品販売店（経営者）	・当地域では特に良くなる要因がまだ見当たらない。今回のガソリン税のような問題があると多少物が動いたりするが、特にこれといった要因は見当たらない。
		住関連専門店（仕入担当）	・5月単月で見ると前年より休日のつながり方からやや上積みが見込めるが、それ以外に具体的な回復要素がない。
		都市型ホテル（経営者）	・市内の自動車産業が最大手の傘下になり、市内工場がフル稼働と聞いている。これに伴い、町が活気づくことも考えられるが、今までの減少分を考えると現状維持が妥当である。
		ゴルフ場（従業員）	・予約状況等見てもほぼ前年比で同程度である。数字的にも来客数は変わらない。単価の動きに関してもほぼ横ばいであり、かなり低価格の路線が続く。
ゴルフ場（従業員）		・来場予約の数が増えない。	
競輪場（職員）	・前年同様の大会があり、購買額、発売額がほとんど同じ額であった。		
その他レジャー施設〔アミューズメント〕（職員）	・エンターテインメントというか、やすらぎに対する客の消費の余力が少なくなっているような気がする。ただ、そういった需要はあるし、ある程度安くて、近くて、短いということから、ネットカフェ、アミューズメントパークを利用することは当然あると思う。しかし、大きく好転するというような要素は見受けられないので、今の若干良くない状態が続くと考えている。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		住宅販売会社（経営者）	・賃上げが厳しい状況も変わらず、物価の上昇も激しく、駅前のマンションの売れ残りも目立ち、郊外の新築戸建住宅も百万単位の値下げにもかかわらず、こちらも売れ残っている状況である。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・今人々が買い控えをしている。本当に入用品以外は買物をしない。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	・飲食店の売上が非常に悪い。
		百貨店（総務担当）	・社員、従業員の収入が増加せず、天引きされる税金が増加し、使える金が年々減少している。これでは一般的な店では経営がますます悪化する一方である。
		百貨店（販売促進担当）	・ガソリンや食材等の相次ぐ値上げにより、客の財布のひもが固い。特に高額品が敬遠されがちで、価格に対する考え方がシビアになっている。
		スーパー（経営者）	・客の購買心理が低下している。
		スーパー（総務担当）	・客の動向を見ていると食料品についてはかなり単価も販売数量も落ちてきている。衣料品については必要な物以外は買わない。ガソリンの値上げ問題、食料品の原材料の問題が客の動向、景気回復の足を引っ張っている。
		スーパー（統括）	・良くなりそうな条件が見当たらない。
		スーパー（統括）	・値上げは、これからまだまだ続くことが予測され、消費者の財布のひもは更に固くなる。商売としては、ますますねらう客を明確にとらえていかねば生き残れない。
		衣料品専門店（経営者）	・身の回りの物が値上がりしてくると衣料品は売れない。
		衣料品専門店（店長）	・食料品や燃料費等の生活必需品の値上がりにより、生活防衛のためにファッション商品に対しての需要はますます冷え込む。
		家電量販店（店長）	・ボーナス商戦とオリンピック効果が期待のとおり出ればデジタル関連の映像商品が大きく伸びると思われるが、盛り上がりを感じない。
		高級レストラン（店長）	・所得が増えないなかで、食品や電気、ガス、ガソリン等、家計を直撃する値上げがあり、客は必要な物以外は金を使わない。こうした状況が改善する要素が全く見当たらない。
		スナック（経営者）	・物価高で財布のひもがとて固くなってきている。景気が良くなっていくはずはない。
		都市型ホテル（支配人）	・状況が悪いにもかかわらず、新しいホテルが県庁のそばに出来るのでますます厳しくなる。
		旅行代理店（従業員）	・前年まで旅行をしていた客が、今年は取りやめになるところが増えている。
		旅行代理店（副支店長）	・燃油が一時的に下がったが、原油が上がっているこの先の海外旅行に与える燃油サーチャージが大変高額になる。このため、海外旅行の需要は少なくなる。また、新型インフルエンザ、チベット問題と先行き不安要素が山積みであることも影響する。国内の旅行は増えると思われるが、海外旅行との価格差が問題になる。
	ゴルフ場（副支配人）	・こここのところ、コンペなどの2～3か月先の予約の取り込みが好調であったが、今月は5月末から6月ごろの予約の取り込みが若干鈍っている。価格の面もあるが、ガソリンの高騰といった社会的な問題が膨れ上がってきているため、控えている感じが見受けられており、今までの勢いが若干弱まっている。収支については、単価を下けているため、売上が伸び悩んでいる。経費については、固定費が若干増加している。	
	美容室（経営者）	・現金で支払ってもらおう商売は厳しくなる。当店は年齢層も高く、年金生活者もいるので、美容室に来ることは一つのぜいたくと感じてしまう可能性もあり、当然来店頻度は減る。	
	設計事務所（経営者）	・設備投資の鈍化、鉄製品等の建設資材の高騰、建築確認の遅れ等により工期の設定が難しい。	
	悪くなる	商店街（代表者）	・身の回りの多くの品物が値上がりをしている。商店街の中でも値上げせずに頑張っている店も見られるが、いつまで我慢できるか懸念している。価格が落ち着くまでにはかなりの時間がかかる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔衣料〕 (経営者)	・住んでいる地方の町の様子、また、テレビから流れる国内の様子、これらをどうとって良くなるという状況はありえず、やはり悪くなっていく。ガソリン税が5月から上がっていくこと等、いろいろなことを加味すると、いろいろな問題が山積している。早く良くなって欲しいが、どうしようもないことである。
		スーパー(販売促進担当)	・石油高騰、来客数減は続く。価格に対しても非常に敏感になっており、高品質で価格の高い物より、少しでも価格の安い商品に対する購買欲が強いので、量を販売しなければ売上が上がらないが、生活防衛のため、買上点数も下がっており、非常に厳しい状況にある。
		乗用車販売店(従業員)	・このままの景況が続けば店舗閉鎖、並びに、人員整理に着手せざるを得なくなり、ますます景気は悪くなる。
		都市型ホテル(スタッフ)	・今後2、3か月先に新しい宿泊特化型のホテルが進出してくる。最終的に5つの新ホテルが進出、オープンとなる。地元の古いホテルにはかなり影響するのではないかと懸念されている。
		タクシー運転手	・当地域はタクシー料金値上げを一度は見送ったが、再度5月1日から値上げするため、利用客が少なくなる。
		タクシー(経営者)	・1、2、3、4月と月を追うごとに収入が落ち込んでいるのでこの先も悪いと見ている。
		ゴルフ練習場(経営者)	・仕入コストや商品の価格が上がるなか、販売価格の値上げを消費者に理解してもらえない。
		ゴルフ場(支配人)	・ガソリン料金の再値上げにより、県外、もしくは遠方からの来場者は期待できない。マイカーではなくバスバックなどの値引き企画を進めていくしかない。また、原材料費高騰により、各商品の原価率アップが目につく。予約、ゴルフプレーヤーの状況は決して好転していない。
		設計事務所(所長)	・ほんの一部を除いて、同業者や建設業者は倒産の危機に直面している。本当に深刻な状況になっている。
企業 動向 関連	良くなる	その他製造業〔環境機器〕(経営者)	・今までの製造、納品、設置が8月までかかるので、メンテナンスとともに仕事の上乗せになる。加えて前年からの法規制で大型建物からのフロンガス回収が増えており、フロン回収機の製造販売、メンテナンスが仕事の上乗せとなる。
	やや良くなる	一般機械器具製造業(経営者)	・6月以降建設機械の部品は順次増加し、自動車部品関連は9品がなくなり、新規部品に変更になる予定である。
		輸送用機械器具製造業(経営者)	・受注量、受注価格、販売量等も非常に多く、大変に好調な状況がしばらく続いている。
	変わらない	窯業・土石製品製造業(経営者)	・例年であれば、この2、3か月が最も多忙な時期となるが、今年はその特注の受注がなくなってしまい、それに代わった受注予定もこれといって良い材料はないが、店頭一般商品受注が割と安定しているため現状と変わらない。ただ、自店販売で特に銀地金の高騰による関係材料の値上げに伴い、順調に推移していた販売量が減少気味である。
		輸送業(営業担当)	・燃料を使って商売している業者としては運賃転嫁による売上の伸びもあるにもかかわらず、利益としては少なくなってしまう状況である。
		その他サービス業〔情報サービス〕(経営者)	・受注の推移からみても、特段の変化は感じられない。
	やや悪くなる	食料品製造業(製造担当)	・スーパーに値上げを容認してもらえたが、やはり利益確保の面で更に他の業者とのしのぎあいになり、資金の体力のない企業は倒産に追い込まれて、景気はますます悪くなる。
		一般機械器具製造業(生産管理担当)	・期待していた建設機械、油圧機器の伸びが鈍化するとともに、鋼材の大幅な値上げが現実のものとなり、現状のままでは確実に状況は悪化していく。
		電気機械器具製造業(経営者)	・受注の取り消し等があり、短時間の仕事や試作の仕事しか見込めない。小さい仕事や安い仕事でも拾っていくしかない。
電気機械器具製造業(営業担当)		・受注の見通しの悪さと、仕事量が少ないことによって、企業間の競争が激しくなっており、原材料の高騰分を製品価格に転嫁できないため、利益が希薄になっている。	
新聞販売店〔広告〕(総務担当)		・食品スーパー、ホームセンター店長が、消費者は節約傾向を強めており、チラシの特売品、安い物だけをねらって買う、との話をしている。	
社会保険労務士		・事業計画が前期と比べ慎重な会社が多い。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	悪くなる	化学工業（経営者）	・仕入れ原材料が高騰したため、製品の値上げを進めているが、なかなか厳しく、時期がずれ込んでいる。そのため、収益を圧迫してきている。
		電気機械器具製造業（経営者）	・親会社が暇なので、仕事を引き上げたり、囲い込んだりする状況である。当社も3月までは目一杯仕事があったが、4、5月とすかさずかの状態になりつつある。
		その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	・通常夏場はライトジュエリーといわれる低価格品しか動かないが、これまでそれすら動きがないため、見込みは厳しい。
		建設業（総務担当）	・当地域において将来の展望が立たないため建設業をやめる企業が後を立たない。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	・大手会社はどこの会社も仕事の量が少ない。忙しくなったとしても短い。
	やや悪くなる	人材派遣会社（経営者）	・5月の連休を過ぎての生産や販売、加工等においては幾分持ち直すものの、人件費は頭打ちでの採用であり、残業等も全業種少なめである。全業種に渡り厳しい状況である。
		人材派遣会社（営業担当）	・景気の先行きに不安材料があり、企業は長期的な採用計画を打ち出せないでいる。
		職業安定所（職員）	・6月末に工場閉鎖が予定されており、100名以上の離職者が発生する。
		職業安定所（職員）	・新卒者の採用意欲はおう盛で、早期に人材確保したい意向が強いものの、求人数が19年度は前年同月比で全月減少している。
		職業安定所（職員）	・先行指標である新規求人数が大幅に減少している。特に主要産業である製造業からの求人が減少している。
		民間職業紹介機関（経営者）	・実際の数字は深刻ではないが、将来に対する不安が業務展開の積極性を失わせている。戦力には遠い新卒者の入社もあり、求人については、技術、専門の即戦力以外の職種に対して大きなブレーキを掛けようとしている。
学校〔短期大学〕（就職担当）		・当地域にはメーカーが多いこともあり、内外の情勢により採用に影響が出始める可能性がある。特に原油価格の上昇や円高による影響で、当初計画していた採用枠の絞りこみや、更なる厳選採用が生じる。	
悪くなる			

4. 南関東（地域別調査機関：（財）日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる		
	やや良くなる	商店街（代表者）	・イベントを開催したときの反応が、非常に良い。各店舗が広告に対して積極性を見せている。冬の寒さの反動で、街に人が良く出てきている。
		コンビニ（エリア担当）	・7月1日からのタスポカード開始に伴うタバコ客数アップ及び同客によるその他商品の売上が期待できる。
		家電量販店（経営者）	・オリンピック景気で、テレビ、レコーダーを中心に一時的に売上をけん引する。
		家電量販店（統括）	・オリンピックイヤーは、映像商品が売れる。開催日の1か月前がピークとなる。9月以降は、オリンピック需要の後遺症が残る。
		その他専門店〔服飾雑貨〕（統括）	・周辺でマンションのしゅん工があり、住民が増加し順調に売上が推移している。
		旅行代理店（従業員）	・2～3か月後の申込状況が、前年比110%となっている。
		旅行代理店（従業員）	・大型団体の動きは今一つだが、国内の10～30名位の団体旅行の動きは好調である。予約ペースで前年比120%に近い数字になっている。
		通信会社（企画担当）	・批判はあるものの北京オリンピックを契機に、テレビの地上デジタル放送、ケーブルテレビ導入は加速される。
		通信会社（営業担当）	・先行き不透明なところから精神的な不景気感がある。8月のオリンピックに向けて次第に浮上する。
通信会社（営業担当）	・8月のオリンピックに向けたテレビの需要増が見込まれる。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
変わらない		ゴルフ練習場（従業員）	・定年して第二の人生に、ゴルフをする人が増えており、また、昨今の若手ゴルファーの活躍で、若い人のゴルフへの取り組み方が変わってきて、結構参加するようになってきている。しばらくは良くなる。
		その他サービス〔語学学校〕（総務担当）	・企業クライアントの生徒数が伸びている。英語教育の必要性が益々高まっている。
		一般小売店〔茶〕（経営者）	・4月末は新茶の時期ということで、新茶の予約を例年取るのが、今年は新茶の予約が極端に悪く、3割くらい予約が少ない。天候次第で良い新茶が取れば、なんとか販売につながるのではないかと期待している。
		一般小売店〔衣料・雑貨〕（経営者）	・商品の値上げや高齢者の医療制度や年金問題等で、中高年客で上質の商品から値ごろ商品に切替えて買っていき客が多くなった。3か月先も変わらない。
		一般小売店〔鞆・袋物〕（従業員）	・相変わらずギフト需要、シーズンイベント商品は好調である。単価も2割ほどアップして推移している。日用品については買い控えをしている。買う時に、客は製造国を気にしている。特に中国製品に関しては買い控えが目立つ。
		一般小売店〔文具〕（販売企画担当）	・今後6月に石油等の原価の上昇に対応して、文房具の値上げもメーカーから言われている。値上げすれば販売量は少なく、売っても売上はそれなりになるが、その分原価も上がっているため利益の確保は難しい。
		百貨店（広報担当）	・高額品の商況は今月も決して悪くなく、宝飾時計、美術品等の売上は前年並みである。都心では6月に地下鉄新都心線の開業を控えており、来街者増加の好材料となる。
		百貨店（販売促進担当）	・大型SCの開店以来、最寄り駅の乗降客数が増加し、マンションも多く建ち、商圏人口も増加しているものの、原油などを始めとする物価の高騰など消費行動自体はあまり活発ではない。ゴールデンウィークの商況がどうなるかは不安材料もあり現状どおり停滞が続くのではないかと。
		百貨店（業務担当）	・セール品や食品関係等については、まだそれほどの影響はないようだが、一般で売っている常備品と呼ばれる物については、ここ最近非常に売上が厳しい。百貨店の価格そのものに対して客の視点が厳しくなっているが、ガソリンやそれに基づく物価上昇が既に予定されている物もとても多いことで、心理的な影響が非常に大きいと感じざるを得ない。ヒット商品もないなか、売上の的には大変厳しいところである。
		百貨店（営業企画担当）	・前月まで好調であったラグジュアリーブランドが今月苦戦する等、消費の力強さがあまり感じられない。
		百貨店（副店長）	・順調に伸びていた紳士関連商品も4月に入って買い控え傾向が若干目立っている。
		スーパー（店長）	・アメリカ産牛肉の特定危険部位混入によって、食品安全に対する不安が再燃してきている。これが小売業にとって相当マイナス面に現れてくる。
		スーパー（仕入担当）	・原料高は続き、中国産冷凍ギョウザ問題、縫い針混入事件等、食の安全への消費者意識がますます高まり、消費の低迷が懸念される。
		衣料品専門店（経営者）	・当店は結構50代以上の客が多いが、買物が非常に慎重になっているので、これから急速に良くなるようには感じられない。慎重に買物をしている。
		乗用車販売店（経営者）	・暫定税率の関係で新車の販売や車検整備等税金に関わる部分で客も会社としても混乱している。早くこの不安定な状況が収まらないと先行きが大変不安である。
		乗用車販売店（経営者）	・自動車の整備と販売をやっているが、整備は順調に入っているが、販売は暫定税率が決定していないので重量税と取得税が下がるかもしれないということで待ちの客が大分多い。5割ほど先月より販売がダウンしている。
		乗用車販売店（営業担当）	・今月の販売量や来客数が増える気配すらしない。それに加えて暫定税率の件が影響している。
	高級レストラン（支配人）	・今後も大きな変化はないが、客単価が徐々に下がっているのが少し気になる場所である。	
	一般レストラン（経営者）	・全般的にマイナス傾向だが、客の業種、業態によって、経費で宴会費が賄える企業も増えている。	
	タクシー（団体役員）	・客の反応などから景気の良い話が聞こえてこず、まだまだ厳しい現状が続くようである。特に原油価格の高騰が続くようだと、ますます客の交通費等の経費削減に響く。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（総務担当）	・前月同様であるが、既契約者からの解約申出について、当初予測したほど多くはないのではないかと感じられる。また、4月に大型ショッピングセンターがオープンし、連日かなりにぎわっているが、キーテナントの大型家電店が5月に遅れてオープンするので、しばらくはにぎわいが続く予測できる。
		通信会社（支店長）	・全体的に消費者の動きが鈍くなっており、今後中小企業の通信コスト削減の意識が高まっていくため、法人需要の獲得に向けた営業に注力する必要がある。
		ゴルフ場（支配人）	・2～3か月後の予約が、平年並みより若干落ちている。
		その他レジャー施設 [アミューズメント] (職員)	・海外、特にヨーロッパ、アメリカは堅調であるが、国内はさほど良くない。そのような情勢のなか、日本における携帯型ゲーム機は、高機能なゲーム機が主流ゲーム機の販売台数をしのぎ、いままでの劣勢を跳ね返している。また別のゲーム機も右肩上がりが増え、ゲーム関連会社間の競争が再燃し、市場を活性化させる一端がかいま見える。
	やや悪くなる	百貨店（総務担当）	・消費者物価指数の反転が顕著であることに加え、年金、道路特定財源等における政局不安が消費性向を一段と押し下げている。
		百貨店（企画担当）	・原油価格の高騰、原材料の値上げによる販売価格の上昇、金融、証券市場の不透明感、政治状況の不安定さなどが、個人消費に心理的、実質的な影響を与えている。また、地域内において新規のマンションに売れ残りが生ずる例も見られ、先行きに比較的好材料の多い地域とは言え、景気悪化は免れない。
		百貨店（営業担当）	・3月より4月の方が全般的に低迷しており、特に婦人服、服飾雑貨に顕著に現れている。来客数だけではなく客単価も低下しており景気の低迷が出始めている。
		百貨店（営業担当）	・年金、医療費問題をはじめ、物価の上昇、増税等の話題が報道等でクローズアップされているため、客全体が今後の生活について不安を敏感に感じている。必要な食料品などの購入には影響は少ないと思われる半面、宝飾品、アクセサリ等に代表される趣味などに関する出費を抑える傾向はしばらく続く。
		スーパー（店長）	・ガソリンや電気等の生活関連費や食品自体の値上げによる影響で、一品単価は上がっても、買上点数が伸び悩む傾向になってくる。
		スーパー（統括）	・客の買い方を見ていると、価格訴求、広告商品、日替わり商品などの買いやすい値段を打ち出した物については、朝から並ぶように非常に反応が良いが、価値訴求商品やグレードを上げた商品については非常に買い渋っている状況である。
		コンビニ（経営者）	・各月少しずつ悪くなっている。数か月で見ると分かるくらいであるが、良くなる兆しが全然見えない。
		衣料品専門店（経営者）	・夏のヒット商品が見当たらず、商品の値上がり、個人収入の減少などで余裕をなくしている状態で、先々あまり良くない。
		衣料品専門店（経営者）	・ヒットアイテム、春物商戦が無く、ただだらと初夏物商材に移行しそである。特に軽衣料になり客単価は低迷し、低単価でも購買意欲は低く、数字を取るのが難しい。
		衣料品専門店（経営者）	・円高と原油高によって、いろいろな物が値上がりし、買い控えが進んでいる。
		衣料品専門店（営業担当）	・食料品の値上げや5月からのガソリンの値上げ等、家計の財布のひもを締めるばかりで、購買力が無くなってきている。
		衣料品専門店（営業担当）	・段々と不況の様相になってきている。財布のひもが大分固くなっている。
		乗用車販売店（経営者）	・製鉄会社の自動車業界に対する大幅な値上げ、ガソリンの暫定税率の復活、ガソリンも含めた輸入物品の大幅な値上げで、価格等に転嫁された場合、個人収入が増えていないので、消費が落ち込む。
		乗用車販売店（渉外担当）	・暫定税率問題による混乱、燃料価格、物価高など価格安定が見えない状況であり、買い控えの長期化が懸念される。当面は前年値クリアが課題で増販は望めない。顧客囲い込み販売戦略等の一層の工夫が求められる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（販売担当）	・燃料代は上昇しており、また大型車の免許の取得者が高齢化し、補充もできていない状況で、トラック輸送業界は全体的に厳しい。加えて、輸送量についても全体的に減少している。
		都市型ホテル（スタッフ）	・新規の宴会利用の問い合わせがあるものの、レストランの今月の入込状況から先を見ると、宴会の法人利用が今後落ちてくるか、予算を絞ってくる可能性がある。
		都市型ホテル（スタッフ）	・物価の高騰や企業の経営不振等で接待利用や出張の減少が懸念される。
		都市型ホテル（スタッフ）	・今年度上期の結婚披露宴の予約状況は、かなり厳しい状況になっていて、予約の数が思ったほど伸びていない現状である。
		旅行代理店（従業員）	・成田出国者数も伸び悩んでおり、燃油サーチャージ問題を含めて特に若年層の海外旅行離れの傾向が続いている。業務性渡航に期待したいが、円高による景気後退の見通しの中で不透明感が強い。
		通信会社（営業担当）	・生活に直結する諸物価の値上げへの防衛的な切り詰めの影響も懸念される。解約も増加傾向である。
		その他サービス〔学習塾〕（経営者）	・一時期生徒数の減少が下げ止まった感があったが、またじりじりと少なくなっている。3か月先もやや少なくなる。
		その他サービス〔結婚式場〕（従業員）	・披露宴で一番最初に提示した見積以上の金額になると値引き交渉する客や、オプションをほとんど付けない客が最近多くなっている。昔のように、あれもこれも付けるといことはめったにない。
		設計事務所（所長）	・非常に厳しいなかで、更に悪くなっていく。許可が下りても、着手ができないという状況があり、鋼材、建築材料費がますます上がっていくというなかで、建築着工件数も減り、仕事量も非常に少なくなるという状況がますます強くなっていく。
		住宅販売会社（従業員）	・住宅、不動産の購入意欲は年度末をピークにして今後落ちるのでやや景気は悪くなる。今年のゴールデンウィークは連休を取りにくくなっているために住宅不動産探しにかかる時間が少なくなり、来場者数、販売量共にやや落ちる。
悪くなる		商店街（代表者）	・マスコミ関係で、ガソリン問題、高齢化社会などが取り上げられるなど、非常にひずみが出ている。お金を使わないことに客が敏感で、非常に欲しい物だけしか買わない状況である。
		百貨店（総務担当）	・生活防衛に走らせるような要因が多々見られる。
		コンビニ（経営者）	・ガソリン等の値上がりにより、商品の仕入値が上がってきている。
		コンビニ（経営者）	・来月以降、多くの品目で大幅値上げの連絡が来ている。客が大型店、ディスカウント店に流れ、コンビニ離れが急加速しており、営業継続の是非を考えている。
		衣料品専門店（次長）	・ガソリンが高騰していることにより郊外店舗への車での買物が減っている。また、生活必需品の買い控えが顕著に出て、肌着、靴下など流行に左右されにくい商品に影響が出ている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・原油価格高騰で、仕入価格も上がり、料金の値上げを考えざるをえない。
		設計事務所（経営者）	・建築設計を営んでいるが、公共の仕事が減っており、民間事業で補いたいのが、状況が分からず不安で一杯である。全体のパイが少ない、今どうしていいのかわからない、先が見えないというのが現状である。
		設計事務所（所長）	・昨年からの計画の物件も先送りする物が多くなっている。
企業動向関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	電気機械器具製造業（経営者）	・ビル空調に関して、最近は価格よりも品質の良い機器を使いたいというエンドユーザーからの要望が増えている。
	変わらない	食料品製造業（経営者）	・商品の値上げをしなくてはならないので買い控えが多くなってくる。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・今月は特需があり1月に比べ数字的には伸びているが、他の得意先の注文量はやはり抑え気味で変わらない。
		化学工業（従業員）	・取引先でも注文量が低迷しており、今後増える要素はない。
		一般機械器具製造業（経営者）	・2か月先の予定表をもらっているが、受注量はそれほど変わらない。客の話からは、良いムードがない。アメリカの景気が悪いということではいつか締め上げがくるのではないかとという危機感がある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		建設業（経理担当）	・少ない案件を同業他社と競争で取り合っている状態が、まだまだ続きそうである。材料の高騰も収まらず、このままでは業界の行く末が心配である。
		広告代理店（従業員）	・既存取引先からの売上が減少傾向にあり、それが続く。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（経営者）	・今は契約受注が増えているが、定期的でコンスタントな契約ではなく、スポット的な一時的なものである。
	やや悪くなる	その他サービス業〔情報サービス〕（従業員）	・現在のところ各種設備に対する投資は控えられている。今後も投資拡大の方向に変わる可能性は少ない。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・改正建築基準法で落ちた住宅関連部品の発注の回復にめどが立たない上、原油価格の高騰で仕入価格が上昇するため、利益は圧迫される。ただし化粧品と医療品で新規企画の構想があり、実現すれば好転する。
		金属製品製造業（経営者）	・下請として安定して加工している製品の値下げ要請がある。原料高を吸収することができず、合わせて10%以上の値下げとなり、利益が出ない状況である。量的にも先行き不安なところもある。
		金属製品製造業（経営者）	・全体的に仕事量が減っているなか、地元の自動車メーカーの移転が間近に迫り、下請工場の廃業、他分野への進出など更に競合の激しさを実感している。
		建設業（営業担当）	・客は先行きの見えないなかで、建設投資をかなり控えている。
		輸送業（財務・経理担当）	・輸送業は今後燃料の高値が続く限り業況は良くならない。
		金融業（支店長）	・各企業の売上ダウンと、設備投資の減少のため、かなり状況が悪い。個人も自己破産の増加や今の税金の増額なども考えると悪くなる。
		金融業（審査担当）	・建築資材価格の高騰、建築確認の長期化のみならず物価高、株安等により先行き景気が悪化すると懸念が強くなっている。
		金融業（審査担当）	・景気の先行き不安感を抱く取引先が多く、工場等事業用の不動産取得や大型設備投資の計画が減少傾向にある。
		不動産業（従業員）	・消費材価格、建築費の上昇、または高止まりが続いているため、消費者の買い控えが見られる。
		不動産業（総務担当）	・建築費が高騰しており、徐々にマンション販売価格に転嫁せざるを得ない状況になっている。今後の販売価格の値上げにより、売行きは落ちるので、どの程度の値上げなら許容範囲なのか見極める必要があるが、市場全体のムードにより顧客の購入マインドが冷えるのがより怖い。
		経営コンサルタント	・ここ数十年、ややデフレ気味な経済状況の中で、生活者は強く価格を意識することなく過ごしてきたが、最近、諸要因により、価格の変動を実感し、価格に対する意識が大きく働くようになってきている。小規模事業者は、こうした客の動きに非常に敏感になっており、料金改定に臆病になっている。
その他サービス業〔廃棄物処理〕（経営者）	・ガソリンや原材料費等値上げが確実なため、利益圧迫が更に強くなる。		
悪くなる	プラスチック製品製造業（経営者）	・原料高以外にもるもる値上げが進み、すべてが買い控えをしているようで、全体の動きが大変悪い。この傾向は今後も続く。	
	建設業（経営者）	・銀行の貸し渋りにより、状況は厳しくなる。	
	建設業（経営者）	・原油が高止まりすることなく最高値更新中により材料も上がり続けていく。	
	輸送業（総務担当）	・取扱貨物が公共事業関係なので、年度始めは例年出荷量が少ないが、今年は例年の20%にも達していない。運送料、保管料、荷扱料すべて激減で、資金繰りが非常に厳しく苦慮している。	
雇用関連	良くなる		
	やや良くなる	学校〔専門学校〕（教務担当）	・当校は2年制の専門学校だが、特にIT系企業について各企業の採用意欲が高く、1年生の3月から就職活動を開始して既に約30%の内定が出ている。
	変わらない	人材派遣会社（支店長）	・企業組織変更に伴う特需の見込みはあるが、ベースとなるリテールにおいて受注の伸びが期待しにくい現状のため、厳しい状況は続く。
人材派遣会社（営業担当）		・金融機関の人事部にも経費の締め付けがあり、新規発注を今しばらく控える姿勢が続く。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		求人情報誌製作会社（編集担当）	・中小企業をはじめ物販、飲食関連等は、このところの景気の動向、消費者の購買意欲の動きを見極めている状況が続いているが、ただ落ち込みを静観しているのではなく、業務拡張的な積極策を打つタイミングを見計らっている様子が見える。
		職業安定所（職員）	・新規求人数、新規求職者数共に減少傾向が続いている。求人意欲は低下しており、今後も大きな変化はない。
		学校〔専修学校〕（就職担当）	・昨年求人実績企業の今年度求人獲得予定数に大きな変化は見られない。
	やや悪くなる	人材派遣会社（営業担当）	・クライアントから正社員雇用の求人を抑えている傾向にあるという情報を耳にする。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・アルバイト、パート採用、社員採用共に、企業の採用活動の動きに厳しさが出ている。現状の従業員で業務をこなす動きが強く、新たな採用を進める事にちゅうちょする企業が増えている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・人が集まりやすくなると、企業の広告投下費用が減少し、そのため広告の露出が減る。求職者が焦って応募効果が高まる。企業が更に広告を控えるという図式が否めず、中途雇用に関しては停滞感が広がっている。
		職業安定所（所長）	・管内企業に対するヒアリングによれば、原油、原材料の高騰分の価格転嫁による買い控えからの売上減少、価格転嫁ができない収益の圧迫等により、募集活動を見合わせるもした企業が複数ある。また、大型店舗進出の影響による小売店の相次ぐ廃業が事業経営を圧迫しており、雇用調整を視野に検討するもした飲食料品卸売業経営者も見られた。
		職業安定所（職員）	・周辺企業で、建設企業が大量のリストラを計画しており、離職者が増える。
		職業安定所（職員）	・求職者は前年同月比で大幅な増減はないものの、求人数が減少している。また、企業より、雇用調整の相談も数件あり、今後求職者が増加する。
		民間職業紹介機関（経営者）	・クライアントには、メーカーが多いが、サブプライムローン問題、その他資源の高騰等によるコストアップや消費者心理が冷え込む等の影響が出る。
民間職業紹介機関（経営者）		・団塊世代の大量定年が言われているが、その補充を中途採用で補おうとする動きは既に終期にあり、新たな中途採用ニーズが見い出せない状況が続く。	
学校〔短期大学〕（就職担当）	・景気並びに経済状況を見てから採用を考える企業がある。		
	悪くなる	求人情報誌製作会社（広報担当）	・業種、職種を問わず、全く明るい見通しが出てこない。ただでさえ他の業界の調子が悪いところに、これまで唯一好調だった金融業界が不調なので、壊滅的な状況となっている。

5. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング（株））

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	家電量販店（店員）	・オリンピックに向けて、動きは良くなる。
		乗用車販売店（従業員）	・5月に新型車の発表を控えており、かなりの予約が入っている。高額車両であり、利益は大幅に増加する。
		テーマパーク（職員）	・交通アクセスが良くなるため、その効果が現れる。
	変わらない	商店街（代表者）	・暫定税率が復活されるため、個人消費は低迷が続く。
		一般小売店〔結納品〕（経営者）	・諸物価の高騰により、個人消費の低迷が続く。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・燃油サーチャージが高騰するため、海外旅行は減少し、近距離旅行にシフトする。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	・飲食材を始めとする諸物価の高騰のため、飲食店への来客数の減少を止めることはできない。
		百貨店（販売担当）	・全体的に消費マインドの低迷が顕著であり、ボーナス需要にも影響する。特に貴金属は高額であるため、大きな影響を受ける。
		スーパー（経営者）	・諸物価の高騰に加えて、公共料金まで値上げされる予定があるため、消費は相変わらず伸びない。
コンビニ（エリア担当）		・競合店の出店とガソリン価格の高騰はマイナス要因であるが、成人識別たばこ自動販売機の導入に伴い、たばこの売上は増加が見込まれる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（エリア担当）	・客の無駄な物は買わない状態は今後も継続する。
		衣料品専門店（企画担当）	・消費者は生活防衛に入っているため、衣料支出は今後も増加しない。
		家電量販店（店員）	・オリンピック効果でテレビの販売が伸びるが、他は悪くなる。
		家電量販店（店員）	・オリンピックに対する期待は小さい。ガソリンや食料品などの価格高騰の影響により、消費は引き続き低迷していく。
		乗用車販売店（経営者）	・新型車が出る予定はないが、軽自動車への堅調な需要はまだ続く。
		乗用車販売店（従業員）	・暫定税率が復活するとガソリン価格が再び上昇し、買い控えに拍車がかかる。また、車を長く使いたいという考えからか、定期点検による在庫数は増加するが、自動車保険や部品には低価格志向があり、収益的には苦しい。
		スナック（経営者）	・ボーナス期に入るが、今後は物価の上昇によって、財布のひもはますます固くなる。
		都市型ホテル（従業員）	・数か月先の予約数は横ばいである。
		タクシー運転手	・食料品を始め、諸物価の高騰が続くため、家計のやりくりが厳しくなり、タクシー利用は引き続き低迷する。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・今までの販売方法では、売上の確保は今後も困難である。
		商店街（代表者）	・原材料価格の高騰により、利益率は低下する。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	・ガソリンの暫定税率の復活に加えて、ガス、電気の値上げも決まり、客は生活防衛のために出費を抑える。
		一般小売店〔自然食品〕（経営者）	・生活必需品の値上がりに伴い、高価格商品の売行きに少なからず影響が出てくる。
		百貨店（企画担当）	・安価な商品に注目が集まる一方、高額品の動きは非常に鈍い。割引合戦などの体力勝負になってきており、厳しい商戦が続く。
		百貨店（企画担当）	・主要なターゲットである20～30代の女性の購買意欲が落ちていることから、売上はすぐには回復しない。
		百貨店（企画担当）	・暫定税率の復活に伴うガソリンの再値上げ、各種公共料金の値上げ、高齢者の医療費負担の増大等の影響により、今後も更に悪くなる。
		スーパー（店長）	・暫定税率の復活に伴うガソリンの再値上げや食品値上げなどにより、購買意欲は弱くなる。競合店の出店もまだまだ続き、売上の確保は難しい。また、人手不足でパート時給も高騰しており、人件費比率が高まって経営を圧迫する。
		スーパー（店長）	・所得が増えないなか、ガソリンを始め諸物価の高騰が続くため、財布のひもは固くなる。
		スーパー（営業担当）	・高齢者の医療負担増や暫定税率の復活などにより、消費者の生活防衛意識が高まり、消費は低迷する。
		スーパー（仕入担当）	・今後値上げ商品が増えるため、客の節約意識は一段と高まり、売上の増加は見込めない。
		コンビニ（経営者）	・客は家計のやりくりで四苦八苦している状況なので、当店のような零細小売業は良くならない。
		コンビニ（エリア担当）	・ガソリンの暫定税率の復活により、家計を引き締めると言う客が多い。
		コンビニ（店長）	・燃料価格の高騰に伴う商品の値上げが、消費を鈍化させていく。
		コンビニ（店長）	・商品の値上げは今後も続くため、消費者は一層、価格に敏感になっていく。
		コンビニ（商品開発担当）	・原材料価格の高騰に伴う食品値上げが徐々に進行する上、耐久消費財や光熱費の上昇も確実であり、良くなる要素は見当たらない。
		衣料品専門店（売場担当）	・ボーナス商戦に入るが、低価格志向は今後も続く。
		乗用車販売店（営業担当）	・所得が増えていないなか、ガソリン価格が更に上昇する話がある。
		一般レストラン（従業員）	・ガソリン価格の高騰や原材料の値上がり、飲酒運転の取締強化などが影響して、今後も悪くなる。
		観光型ホテル（販売担当）	・2、3か月の予約が現時点で全くなく、やや悪くなっていく。
		都市型ホテル（営業担当）	・ガソリンや小麦など諸物価が高騰していく雰囲気強く、需要は落ち込んでいく。
		旅行代理店（経営者）	・海外旅行客数は、夏の繁忙期も減少していく。
		旅行代理店（従業員）	・原油高が続くと、航空代に影響が出る。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		パチンコ店（経営者） 住宅販売会社（従業員）	・監督官庁の規制強化の影響が、業界全体に広がる。 ・住宅購入客に対し、金融機関の審査が厳しくなっている。今後は新築よりリフォームが優先され、建築会社は薄利多売をしなくてはならなくなり、より苦しくなっていく。
		その他住宅投資の動向を把握できる者〔室内装飾業〕（経営者）	・見積り依頼等の問い合わせが減少している。
	悪くなる	商店街（代表者）	・原材料、食料品や原油の価格が上昇するため、当面低迷する。
		商店街（代表者）	・諸物価が上昇するため、耐久消費財の購入は減少する。
		百貨店（外商担当）	・ガソリンを始め諸物価の値上がりにより、買い控えは更に拡大していく。
		乗用車販売店（従業員）	・生活用品の値上がりに加えて、暫定税率の復活により自動車取得税が元に戻り、ガソリン価格も上昇するため、今後は厳しくなる。
	その他専門店〔雑貨〕（店員）	・所得が伸びないなか、諸物価の上昇により、財布のひもは固くなっていく。	
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	窯業・土石製品製造業（社員）	・大手顧客による新規設備の立ち上げが決まっており、受注は増加する。
		一般機械器具製造業（営業担当）	・受注量は、2、3か月後まで増加する。
		電気機械器具製造業（経営者）	・新製品の販売が本格的に始まる。
		輸送用機械器具製造業（統括）	・主力取引先からの受注は、今後も順調に増加していく。
	変わらない	紙加工品〔段ボール〕製造業（経営者）	・取引先数社に聞いても、販売量は増加しない。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（総務担当）	・受注量、販売量共に、現状を維持する。
		電気機械器具製造業（経営者）	・今後も引き続き、自動車、工作機械関連が全体をけん引していく。
		広告代理店（制作担当）	・取引先から明るい情報はなく、今後も横ばいが続く。
	やや悪くなる	化学工業（企画担当）	・原油、原材料の価格高騰に伴うコスト増加とドル安により、今後は企業利益に対してマイナスの影響が出てくる。
		輸送業（経営者）	・メーカー系を中心に在庫水準を下げるための生産調整が開始されており、生産財の物量は減少し始めている。
		輸送業（従業員）	・原油価格の高騰を始め、原材料の値上がりが景気全体を減退させる要因になる。
広告代理店・新聞販売店〔広告〕		・2、3か月先の広告の出稿量、受注量はいつもより出足が遅いため、若干悪くなる。	
悪くなる	金属製品製造業（経営者）	・建築確認申請の遅れに伴う新規着工の遅れは今後も続き、当社もその影響を受ける。	
	建設業（経営者）	・大型物件については依然として確認申請業務が停滞しており、発注物件自体が大幅に減少している。この状況は今後も続く。	
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・派遣も人材紹介も、求人は相変わらず活発である。各企業の採用意欲も高くなっている。この状況は今後も続く。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・製造業の生産調整はそれほど長期化しないと予想され、2、3か月先の求人数は増加していく。
	変わらない	職業安定所（管理担当）	・新規求人数は前年同月比でマイナスとなっており、建設業やサービス業を中心に、今後も求人が減少するのは明らかである。
		民間職業紹介機関（職員）	・中小企業からの求人に変動はないが、正社員を大量に採用している企業からの求人数が減少する傾向は今後も続く。
	やや悪くなる	人材派遣会社（経営企画）	・現在の円高と原材料高が客の収益を圧迫する可能性が高く、研究開発費は抑制されるため、技術者求人は減少する。
		人材派遣会社（経営者）	・最近の求人数の動きは非常に鈍く、この先もこの状態が続く。
人材派遣会社（営業担当）		・労働法制の変化の影響により正社員への転換が進み、派遣人材の活用拡大は、現状の経済環境では難しくなる。	
	職業安定所（職員）	・資源価格の高騰などにより、企業は先行投資を控えると考えられ、求人、賃金も抑制される。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	悪くなる		

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由		
家計動向関連	良くなる	-	-		
	やや良くなる	家電量販店（店長） 乗用車販売店（総務担当） 観光型旅館（スタッフ）	・北京オリンピックがAV商品の一つの起爆剤になるのは間違いない。また洞爺湖サミットの開催で消費者の省エネルギー志向が高まり、省エネ商品の動きは活発になる。 ・ショールームの来客数は少ないが、5月は新商品の大型ワゴンがモデルチェンジするため、受注量のかさ上げが期待できる。新型車の予約は予想台数を超えている。 ・4月以降の予約人数は前年及び前々年を上回っている。		
家計動向関連	変わらない	一般小売店〔精肉〕（店長）	・ビル内のアパレル関係の店が苦戦しているため、客の買い回りが悪く、食品部門の店でも大きな影響を受けている。		
		一般小売店〔鮮魚〕（従業員）	・大型ホテルのオープンなど明るい材料もあるが、全体の動きは静かなままで変化しない。		
		百貨店（営業担当）	・全体の集客力はかなり落ち込んでいるものの、個々のショップへは固定客が来店している。ただ、買上単価は上がり、上向きの兆しは見当たらない。		
		スーパー（店長）	・政治不透明による先行き不安が大きく、消費マインドが上昇するとは考えにくい。加えて、小麦関連商品の値上げに象徴される家計への圧迫が景気回復の大きなマイナス要素となっている。		
		コンビニ（経営者）	・5月からのガソリン値上げの影響を受け、商品の買い控えが起こり、客単価が下がる。来客数は増加すると予想しているので、差し引きでは変わらない。		
		コンビニ（経営者）	・タスポカードの導入により、来客数の増加はかなり見込めるが、客単価と粗利は大幅に悪化する。たばこのついで買いの品ぞろえができないとかなり厳しくなる。		
		家電量販店（経営者）	・魅力ある新製品の発売予定がない。		
		乗用車販売店（経営者）	・自動車の販売・修理の需要は景気の風評に左右されやすくなってきた。政治的な判断で諸問題の方向性をはっきりさせない限り、商品力の向上や企業努力だけでは上向かない。		
		乗用車販売店（営業担当）	・現在の販売台数、販売単価、来客数などから総合的に判断すると、現状はこの先も変わらない。		
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	・過去何年間もやや悪い状態が続いているが、好転の兆しは見えず、更に悪化の気配がある。ガソリンの消費量は明らかに頭打ちとなった。		
		高級レストラン（スタッフ）	・個人の利用は例年並みだが、3か月ほど前に市の交際費についてメディアが注目してから、客の利用や予約に加え、出前弁当ですら無くなった。法人接待も縮小しているため、特に和食部門では明るい要素がない。		
		その他レジャー施設（職員）	・来客数、単価、販売数のどれも減少傾向にあり、上向き要素はない。		
		住宅販売会社（従業員）	・資材高騰が住宅着工数の減少に影響したが、予想したほどではなく、現状のままで推移する。		
		家計動向関連	やや悪くなる	一般小売店〔事務用品〕（営業担当）	・今年に入り商品の値上げを実施したことに加え、5月からガソリン価格が上がるため、客の購買意欲が減退し、商材の動きが鈍くなる。
				百貨店（営業担当）	・これから夏物商材の実売期を迎えるが、原材料高騰の影響を受けてメーカーでは生産量を例年の60%程度に抑えるため、全商品を売り切った場合でも売上は例年の6割にとどまる。
百貨店（売場担当）	・店頭で商品を手に取っても、最後は買わない客がかなり見受けられる。				
スーパー（総務担当）	・5月からガソリン価格が再度上がるため、出費を抑制する動きが多くなる。また、4月から導入された「高齢者の医療制度」により年金の手取り金額が減少するため、高齢者の多い地方の消費生活に心理的な悪影響を及ぼす。				
スーパー（営業担当）	・食品の値上げが続く上、5月からのガソリン価格上昇の影響を受け、客の購買意欲は落ち込む。				

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般レストラン（スタッフ）	・ガソリン暫定税率の問題に加え、食料品の値上げが相次ぐなか、消費者の財布のひもは確実に固くなっている。4月はベースアップ・昇給の時期であるが、企業自体も経費増で従業員の給与を上げる状況にない。また、5～8月にかけて住民税や社会保険料等が増加し、実質の手取り金額が減るため、消費増は望めない。
		スナック（経営者）	・製造業関係の客が多いせいか、「業績が落ち込んでいる」「円高の影響が大きい」などの声が聞かれ、今後は厳しい予感がする。
		観光型旅館（経営者）	・原油高に伴い、食材費、リネン費などの単価が約10%値上がりし、販売価格に上乗せせざるを得ない。しかし、消費者の購買意欲も薄れているため、売上減少が心配である。
		都市型ホテル（スタッフ）	・レストラン利用客の減少、一般宴会需要の低迷などがしばらく続く。
		タクシー運転手	・タクシー利用客の節約ムードは一層強まり、限られたパイを奪い合う形が続く。客が目に見えて増えるとは思えない。
		通信会社（営業担当）	・昨今の原油高による物価上昇により、より多くのお金を生活必需品に回さなければならず、携帯電話の買い換えを控える人が増える。
		住宅販売会社（従業員）	・値上げがめじろ押しの状況に加え、賃上げの先行きが不透明で、家計の影響がどの程度か予想もつかない。住宅ローンは金利が上がらないとしても長期返済になることから、客の決断は慎重にならざるを得ない。
	住宅販売会社（従業員）	・住宅展への来場者の中から、新規見込み客を発掘するのはなかなか難しい。	
	悪くなる	百貨店（営業担当）	・食品を始めあらゆる物価の上昇が続いており、婦人服にまで消費が回らない。
		スーパー（店長）	・当地はマイカー保有台数が多いため、5月からのガソリン値上げの影響が大きい。春闘の結果も期待はずれに終わり、加えて食品の値上げも相次いでおり、客の消費が好転する材料は全くない。
		コンビニ（経営者）	・今後もいろいろな商品の値上げが続き、ガソリン価格も上昇する。当店は価格競争力が乏しいため、苦戦が予想される。店頭商品が値上がりしているにもかかわらず、客単価が上昇していないことも心配である。
		テーマパーク（職員）	・団体や募集ツアー共に予約状況は鈍く、諸物価の値上げの影響もあり、1人当たり消費単価の低下傾向が続く。
		住宅販売会社（従業員）	・原油の値上がりによる製品の値上げ圧力は強いが、商品への価格転嫁はできず、企業利益は削られている。消費者の可処分所得も減っているなかで、消費を必要最小限に抑えようという動きがますます強まる。
	企業動向関連	良くなる	-
やや良くなる		税理士（所長）	・今年に入ってから、原油価格の不安定な動きが続き、経営者は積極的な設備投資に尻込みしていたが、今後は建築関係を中心に先送りされた工事の需要も見込まれ、世の中も落ち着いてくれば、消費関係も設備投資も好転する。
変わらない		繊維工業（経営者）	・混乱した現状が好転するにはまだまだ時間がかかる。国内外共に先行きに明るさがなく、当分は底ばい状況が続く。
		プラスチック製品製造業（企画担当）	・住宅着工数の回復は望めず、さらに原材料値上げの影響も不透明で、この先に期待が持てない。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・鋼材の値上げなどの影響が、徐々に利益を圧迫することは明白である。
新聞販売店〔広告〕（従業員）		・折込広告の受注量の減少傾向がこのまま続く。	
やや悪くなる		一般機械器具製造業（総務担当）	・資材高騰の影響で各社共に最終製品の値上げを行っている。当社も仕入れの高騰を製品に反映せざるを得ない状況となっており、受注活動にマイナスの影響が出る。
		精密機械器具製造業（経営者）	・特に国内小売市場において、いわゆる高額帯眼鏡枠の動きがますます悪くなっており、今後の中・高額帯商品の受注確保が懸念される。
		輸送業（配車担当）	・原油高騰による各種商品の値上がりの影響を受けて、消費者の買い控えが進む。このため物量は減少し、運送業界はますます厳しくなる。
		金融業（融資担当）	・ガソリン暫定税率の復活や原油価格の高騰が、一見関係ないと思われる商品の価格にまで及んでいる。食品の値上げも予想され、景気は悪化する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		司法書士	・ 廃業や倒産、詐欺まがいのファンドなどに絡んだ相談が多い。
	悪くなる	食料品製造業（企画担当） 建設業（経営者）	・ 4月からの原材料高騰が激しく、企業内努力も限界に来ている。収益の悪化は確実である。 ・ 道路特定財源関連法案をめぐる国会の混乱が、建設業界の政治に対する不信感を加速しているなかで、地元における道路事業の箇所付け額は前年度の約1割にまで激減し、経営を続ける意欲を更にそいでいる。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・ 求人需要に対応できる技術を持つ人材が少ないため、マッチングできない。また、求職者も少ない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・ 新規の大量採用予定の情報が出てこない。
		民間職業紹介機関（経営者）	・ 原料コスト高などの理由から、各企業には派遣等料金の値上げ要請に応じてもらえない。
	やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・ 最近、数社との長期派遣者の契約を終了したが、原因は業績低迷である。原料高、物価高が景気の足を引っ張る。
職業安定所（職員）		・ 原油高や原材料高騰による販売量減少の影響により、人員整理とまではいかないが、雇用調整の動きが見られる。	
悪くなる	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・ 仕入れや物流など企業の必要コストに直結するガソリンや各種商品の価格の行方が不透明なため、企業では人件費のみならず全般的に支出を抑える傾向がますます強くなる。	

7. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所（株））

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	コンビニ（経営者）	・ 5～7月は例年より暑くなるとの予想が出ているため、飲料水などが動く。
		コンビニ（店長）	・ タスポの導入により、たばこを自動販売機で購入していた客がコンビニで買うようになる。
		その他レジャー施設〔球場〕（経理担当）	・ プロ野球の試合では来客数が伸びずに苦戦しているが、5、6月は交流戦の開催が予定されている。また、人気アイドルグループや人気ロックグループのコンサートもあることから、来客数が増える。
	やや良くなる	スーパー（経営者）	・ 値打ちのある商品にはお金を出してもらえるため、商品を充実させることで販売量が増える。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・ メタボリックシンドロームという内臓脂肪型の肥満が大きくなり取り上げられることで、健康食品や健康器具、ダイエット食品などの動きが良くなる。
		旅行代理店（広報担当）	・ ゴールデンウィークの予約は伸びていないが、旅行そのものへの関心が薄れたわけではない。曜日配列が悪く日程調整できなかったことが一番の原因であるため、2～3か月先は現状よりもやや良くなる。
		通信会社（経営者）	・ 例年どおり夏期は市場の盛り上がりには欠けるほか、割賦販売による購入者が増加することで買い換えサイクルも伸びる。ただし、今月の状況がかなり悪いいため、今月に比べれば若干良くなる。
	変わらない	住宅販売会社（従業員）	・ 需要に合わせてマンション価格も適正水準に落ち着いてくるため、それを機に客の動きが良くなる。
		商店街（代表者）	・ 当商店街の主な顧客である中高年層の間に、消費意欲の低下がみられる。また、買物の際にクレジットカードの利用が増えていることで、手数料負担が重くなる店も出てきている。
		一般小売店〔時計〕（経営者）	・ インターネット販売や、路上で買った時計のサイズ直しに来る客が増えているなど、若者を中心に時計店での商品の購入が減っている。今のところは良くなる兆しがない。
一般小売店〔鮮魚〕（営業担当）		・ 材料価格の値上がりもほぼ落ち着いたので、価格設定を工夫すれば先行きは若干良くなる。	
一般小売店〔菓子〕（営業担当）		・ 一般路面店では、以前と違ってケーキや大福を1個だけ買うような客が増えている。これによって客単価が間違いなく低下している。	
	百貨店（売場主任）	・ 3か月先はバーゲン月となるが、盛り上がりは長続きしない。さらに、物価の上昇のほか、ユーロ高による輸入商品の値上げ、金やプラチナなどの高騰も進むことから、先行きの見通しは暗い。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（売場主任）	・現在の状況を見ると高額商品の動きが回復する要素は少ない。気温や気候といった外的要因に頼るしかなく、大きく好転する要素は見当たらない。
		百貨店（営業担当）	・特に目新しい商品もなく、今までどおりの推移となる。
		百貨店（営業担当）	・富裕層の間でも不景気が認識されており、余裕資金があるにもかかわらず高額品の購入を控えている。
		百貨店（サービス担当）	・年々中元商戦の立ち上がり及早まる傾向にあり、今年は来月からスタートする。ただし、売上の前倒し傾向が進む程度であり、根本的な回復ムードには程遠い。
		スーパー（経理担当）	・ガソリンの再値上げにより、客の節約傾向は更に強まる。ただし、外食から内食の流れが大きくなるため、当面スーパーでは底堅い動きとなる。
		スーパー（管理担当）	・値上げ商品が多いにもかかわらず、食品は比較的堅調に売れている。ただし、衣料品や住居関連の部門には良い材料がなく、先行きが不透明である。
		コンビニ（店長）	・来月以降も小麦関連商品が値上がりするため、客の財布のひもは固くなる。
		その他専門店〔宝飾品〕（販売担当）	・生活必需品の値上げにより、宝飾品の購入意欲が低下している。
		高級レストラン（支配人）	・ゴールデンウィークを迎えたものの、予約、受注共に例年になく低調であるため、今後の見通しは厳しい。
		観光型ホテル（経営者）	・これまではいかに景気が悪くても週末はほぼ満館であったが、先の予約状況は余り芳しくない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・東南アジア諸国からの宿泊客が増えているものの、宿泊を伴う会議、宴会の受注が少ないため、売上は直近の予約状況次第となる。ただし、婚礼の受注については前年を上回る推移となる。
		都市型ホテル（役員）	・前年は工事の影響で一部のレストランが休業したため、今年はその反動で前年を上回るものの、宿泊、宴会共に予約状況は前年を下回っており、厳しい状況が続く。
		タクシー会社（経営者）	・ガソリンの再値上げでタクシーの利用が増える期待はあるものの、交通費全体の節約がタクシーの利用にも波及することになる。
		通信会社（企画担当）	・ゲーム業界ではハード、ソフト共に売上が好調であり、しばらくは今の状況が続く。
		観光名所（経理担当）	・3、4月と前年よりも少しずつ販売量が悪化している。新名神高速道路が開通したことで客が奪われているなど、厳しい状況は今後も続く。
		観光名所（経理担当）	・これから繁忙期に向けて、広告、イベントに力を入れるが、集客は前年並みが精一杯である。
		その他サービス〔生命保険〕（営業担当）	・株価の下落や原油高により全体に停滞感が広がっているため、生命保険への新規加入を検討するケースが減少している。
		その他サービス〔ビデオ・CDレンタル〕（エリア担当）	・商品タイトルの優劣ではなく、全体的に不安定な動きとなっている。
		住宅販売会社（経営者）	・依然として低額物件以外は動きが悪い。完成在庫も動いておらず、持ちこたえられなくなった業者が投げ売りする気配もある。それによって相場にも影響が出てくる。
		住宅販売会社（経営者）	・広告や住宅情報誌といった広告媒体を駆使しても集客できないなど、業界は非常に厳しい状況となっている。
		住宅販売会社（従業員）	・マンション販売の不振で建築費の高騰分を販売価格に転嫁できず、当初の予定よりも事業収支の悪化が進んでいる。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・相変わらず人通りが少ないほか、空き店舗も簡単に埋まらず、同業者も次々と閉店している。ダイレクトメールを出しても、来客数、売上共に改善がみられない。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	・周囲で値上げが進むことから、衣料品関係の買い控えが続く。
		一般小売店〔家具〕（経営者）	・生活必需品の価格上昇により、我々のような小売店は影響を受ける。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	・衣料品にとって厳しい夏を迎えるが、冬から春にかけての動きが悪いだけに、今年は特に厳しくなる。
		一般小売店〔自転車〕（店長）	・ガソリンがまた値上がりするほか、仕入コストも上昇することから、販売側も客側も価格に対してシビアになってくる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（売場担当）	・ユーロ高に伴う値上げもあり、高額品売場の業績が急速に悪化している。また、ボリュームゾーンでも低価格品のみが伸びているなど、全体的に価格志向が強まっているため、急な回復は難しい。
		スーパー（店長）	・所得が増えないなかで食料品などの物価上昇が進んだため、客の間では生活防衛の動きが出てきている。今後は必要のない商品の購入が更に減少し、客1人当たりの買上点数も伸び悩む。
		スーパー（店長）	・今後も食品を中心とした値上げが進むなかで、特に食品以外の分野において、消費者の節約志向と来客数の減少が顕著になる。
		スーパー（開発担当）	・暫定税率の復活でガソリン価格が値上がりするほか、小麦関連商品も値上がりするなど値上げラッシュとなり、消費マインドが冷え込んでいく。
		スーパー（管理担当）	・更なる物価の上昇が進むなか、競合店に対抗するため値下げ展開も行うが、粗利益をどれだけ確保できるかは不透明である。
		コンビニ（店長）	・同業者との競合のほかにも、ファーストフードやドラッグストア、スーパーマーケット、専門店との競争もあるなど、市場環境は厳しい。
		コンビニ（マネージャー）	・前月から2か月連続で月末の来客数が減少している。また、本部の企画した大型キャンペーンも今月で終了するため、来客数が減少することになる。
		衣料品専門店（販売担当）	・ガソリンの暫定税率問題で家計が更に圧迫され、衣料品にお金を回す余裕がなくなってくる。
		乗用車販売店（営業担当）	・一度下がったガソリン価格が再び上がるということで、客の間では車の購入意欲が低下している。
		住関連専門店（店長）	・今年になって高額商品が全く売れなくなっているほか、安売りの大型店がオープンしたため競争が激化する。
		一般レストラン（経営者）	・ガソリンなどの値上がりにより外出が減少するほか、買い控え傾向も進む。
		スナック（経営者）	・当店は団塊世代の客がメインであったが、ほとんどの客が退職したため、先行きの見通しは厳しい。
		観光型旅館（経営者）	・ガソリン価格の動向も気がかりであるが、周辺施設の予約状況が余り伸びていない。
		旅行代理店（経営者）	・燃油サーチャージの上昇や株安が海外旅行の予約に大きな影響を及ぼす。また北京オリンピックも、過去の例をみるとテレビ観戦者が増えて旅行に行く人が減るなど、むしろ悪材料になる。
		タクシー運転手	・社会保障費などの負担が増え、客の使えるお金が少なくなっている。さらに、タクシーの利用は最小限に抑える意識がかなり定着しており、長距離利用の客は非常に少ない。
		その他レジャー施設 [飲食・物販系滞在型施設]（企画担当）	・医療保険料の負担増など、高齢者のレジャー需要を低下させる要素が多い。
		美容室（店長）	・5月以降の予約状況が芳しくない。
		住宅販売会社（経営者）	・一般顧客同士の不動産売買は活発であるが、不動産業者やデベロッパーの在庫が増え続けている。
	悪くなる	商店街（代表者）	・客の消費意欲が上がってこない。特に、男性の消費意欲が極端に低い。
		一般小売店[雑貨]（店長）	・物価の上昇により、たばこ代を節約するといった声も聞かれる。
		衣料品専門店（経営者）	・生活必需品の価格上昇により、趣味的要素の強い商品の売上が悪化する。
		衣料品専門店（販売担当）	・ガソリンや医療費、電気代、ガス代、食品などの値上がりにより、客の生活防衛意識が強まる。
		その他専門店[食品]（経営者）	・販売価格の値上げが客に認知してもらえない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・同じ価格帯で販売しているにもかかわらず、来客数が急激に落ちている。材料価格の上昇についても、販売価格には転嫁できない状況である。さらに、法人客の間では出張や会議、宴会の経費削減についての声が増えてきている。
		住宅販売会社（経営者）	・原材料の高騰はもちろん、ガソリン価格の値上げも建築会社にとっては大きな痛手である。職人の現場への移動や、建材の搬入の際には自動車は不可欠である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
企業 動向 関連	良くなる	輸送業（営業担当）	・前月に比べ、企業間の荷物の移動が増えている。	
		木材木製品製造業（経営者）	・順調に契約が決まっており、販売目標額に近づきつつある。	
	やや良くなる	化学工業（経営者）	・社内体制の整備により得意先の要望にも対処しやすくなったため、売上はしばらく順調に推移する。	
		金属製品製造業（管理担当）	・薄型テレビ工場の建設が始まったため、今後は忙しくなる。	
	変わらない	電気機械器具製造業（宣伝担当）	・北京オリンピックの開催を間近に控え、AV関連商品の荷動きがますます活発になる。	
		繊維工業（団体職員）	・安心、安全という点で国産品への需要は高まりつつあるが、まだ現状では一部にとどまっている。	
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・同業者の工場閉鎖や廃業などでM&Aの話も持ちかけられるが、内需が余り伸びていないため、全体としてはプラスマイナスゼロである。	
		化学工業（管理担当）	・今月の好調は、1～3月に取引先で買い控えの起こった反動によるものである。取引先ではまだ慎重姿勢が根強いため、今後については楽観視できない。	
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・ガラス瓶業界では景気の良い話は聞かれない。ほかの素材の需要が伸びるなかで、ガラス瓶では新たなアイデアもない状態で、新製品が出てもすぐに消えてしまう。	
		金属製品製造業（営業担当）	・素材価格の上昇をスムーズに転嫁できる環境とはならない。	
		電気機械器具製造業（経営者）	・サブプライムローン問題や原材料の高騰といった不安定要素により、景況感の悪化が進む。その一方、特に新興国向けにはチャンスが広がる。	
		不動産業（経営者）	・不動産の取得意欲は比較的堅調であるものの、銀行の融資姿勢が厳しく、取引が不調に終わるケースが多くなってきている。	
		経営コンサルタント	・主な取引先の建築関連業界では、回復の兆しがみられない。	
		やや悪くなる	食料品製造業（従業員）	・価格の安い製品が動いているので製造量は増えているが、価格が安いため利益が圧迫されている。工場は稼働していても従業員に還元できない状態が続いている。
	繊維工業（総務担当）		・染め工程などの加工コストが上がっても、販売価格には上乗せできない状況が続いている。	
	金属製品製造業（経営者）		・値上げが一巡すれば荷動きも鈍化する。	
	一般機械器具製造業（経営者）		・当社には鉄鋼関連の取引先が多いが、設備投資の計画が若干手控えられている。	
	一般機械器具製造業（経営者）		・材料、資材価格の値上がりで収益が悪化している。	
	その他製造業〔履物〕（団体役員）		・原油価格の上昇により収益が圧迫されている。	
	建設業（経営者）		・鉄筋、鉄骨の値上がりに歯止めが掛からず、建築予定物件も当初予算より大幅なアップとなっている。さらに、景気の先行きが不透明なこともあり、計画の凍結や大幅な見直しの動きも出てきている。	
	建設業（経営者）		・ガソリンや建設資材の値上げが相次いでおり、しばらくは設備投資を行いにくい状況が続く。	
	輸送業（営業所長）		・5月以降、燃料が値上がりすることは確実であるため、経費の削減が必須課題となる。	
	輸送業（総務担当）		・原材料価格が上がっているほか、取引先では設備投資関係が消極的になりつつある。	
	不動産業（営業担当）		・建築資材は今後更に高騰する一方、消費も悪化しているため、特にマンション業界は景況感の悪化が進む。	
	新聞販売店〔広告〕（店主）		・新聞の読者は増えつつあるが、折り込み件数が減少しているため厳しい状況が続く。	
	広告代理店（営業担当）		・今年になって売上が月ごとに悪くなっている。	
	司法書士		・現状は案件が少ないほか、今後も事件数も伸びる要素がないため、やや悪くなる。	
	その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）		・引き合いや受注が極端に少なくなっている。	
	悪くなる		繊維工業（総務担当）	・製品価格が下がり続けるなかで、主要原料であるナイロンは昨年だけで3度の値上げが行われた。更に原料の値上げが続く環境にあるため、先行きの見通しは厳しい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		化学工業（企画担当）	・原料の暴騰は止まったが高止まりしている。米国産乳脂といった新たな原料が出てきているものの、成長ホルモンなどの問題もあり、国内で利用できるかどうかは不透明である。
		一般機械器具製造業（設計担当）	・取引先では設備投資の意欲が低下している。
		金融業（営業担当）	・自動車部品製造業だけでなく、製造業全体で原材料コスト上昇分の販売単価への転嫁が進んでいないため、今後も利益は大幅に減少する。また、地価の下落がマンション価格の下落につながるとの期待から、マンションの買い控えが今後も続くため、不動産業や建築業では破産が増加する。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	・先行きの不透明感により、これまで微増となっていた派遣社員の稼働数は、前年並みの推移となる。
		人材派遣会社（経営者）	・徐々にIT関係の案件が増えており、優秀な技術者は取り合いになっている。ただし、金融関係で仕事が少なくなっているために、平均以下の技術者であれば10人程度はすぐに集まる。派遣業界にとっては良い状況であり、この状況はしばらく続く。
		人材派遣会社（支店長）	・求職者確保に引き続き苦戦するほか、求人数は5月以降も増えることはない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・近畿の企業は大半が人材にお金をかける余裕がない。原油高の影響もあり、人材を補充する計画のない企業が多いため、当分は苦戦が続く。
		職業安定所（職員）	・大阪府の有効求人倍率は今年の9月から低下が続いているものの、まだ1倍を超える水準であるほか、低下傾向も落ち着いてきている。ただし、原材料の高騰や円高が企業収益を大きく圧迫することになれば、雇用失業情勢にも大きな影響が出てくる。
	やや悪くなる	新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・道路工事やマンション建設の低迷など、現場の動きが低調な状況はしばらく続く。それに伴って求人の動きも低迷することになる。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・3か月先の受注状況をみても全く良くない。特に、6月は前年比80%の受注にとどまっている。
		職業安定所（職員）	・新規求人数では減少傾向が続いているほか、就職者数も同様に減少している。
悪くなる	職業安定所（職員）	・求人数が減少傾向となっている一方、求職者も同様の傾向にある。多くの在職者は景気の先行きに不安を感じており、再就職も厳しいことから、容易な転職や離職を控えている。ただし、企業の体力も限界に近づいているため、今のような状況が続けば、雇用調整などのリストラの増加により、求職者数も増えてくる。	
	民間職業紹介機関（職員）	・薄型テレビの新工場建設や、建築確認件数の増加による求人増の期待がすべて裏切られたほか、まだまだ悪化するという声も聞かれる。	

8. 中国（地域別調査機関：（社）中国地方総合研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	百貨店（売場担当）	・市内の神社で60年に一度の大遷宮があり、観光客も増加する。それに伴い地元の人も外出回数が増えて服を買ったりするので、景気が上向く。
		スーパー（管理担当）	・新店をオープンし、既存店の顧客が分散することなく、きちんと新規顧客の獲得ができています。販売量も顧客買上点数の増加もみられるため、今後も伸びる。
		コンビニ（エリア担当）	・2～3か月先に大型スーパーの出店が見込まれている。若干オーバーストアぎみではあるが、食品製造もやっている当社にとっては、かなりの売上増が見込まれる。来月また価格改定の予定があるが、それが売上にどう影響するかが気掛かりだが、若干の寄与にはなりそうである。
		家電量販店（店員）	・ボーナス時期で需要が高まり、またオリンピックや地上デジタル放送が追い風になる。
乗用車販売店（統括）	・時期的なこともあるが、元々一般的に需要自体はあるので、6～7月にかけては需要時期でもあり、伸びていく。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（サービス担当）	・6月は例年販売数量が伸びる月であり、セダン系のフルチェンジもあるようなので、少しは良くなる。
		タクシー運転手	・5月に入ると農家は忙しく、この関係の客が減ると思われるが、観光については多くの受注を受けている。当地においては、開府400年祭、出雲大社遷宮、NHK朝の連続ドラマの舞台等いろいろな形で明るい材料があり、客の動きも増えて好転する。
		通信会社（販売企画担当）	・6月から新商品が発売され、市場が活性化すると思われる。
	変わらない	商店街（代表者）	・これからいろいろなイベントなどを実施する予定だが、商店街としての店舗構成や空き店舗数のこともあり、景気が良くなる事は考えにくい。
	変わらない	商店街（代表者）	・ガソリン代の値上げが続けば、車での外出を控え、地元で購入することが多くなると思われるが、諸物価の値上がりと相殺になる。
	変わらない	百貨店（営業担当）	・生活必需品の値上げは続き、家計に及ぼす影響は今後も続く。婦人服業界では、大きな流行の変化もなく、買い換え需要も起こりそうにない。
	変わらない	百貨店（営業担当）	・競合商業施設のオープン景気が落ち着く可能性はあるが、自店の売上基調が浮上する具体的要因が見えないため、現状とほぼ変わらない。
	変わらない	百貨店（販売促進担当）	・ゴールデンウィークにかけ、地域で大型イベントがあり県外からの来客数が増加し、これが売上増につながるという期待感はあるが、5月よりガソリンの再値上げも予測されるので、消費環境が抜本的に良くなるらない。
	変わらない	百貨店（購買担当）	・当百貨店はどちらかというと、若い客より年配の客の来店が多い。このまま物価や衣料品の値上げが続くと、贅沢品や日用雑貨も、百貨店よりスーパーへ流れる傾向が強くなる。
	変わらない	スーパー（店長）	・このところ、店内外に大きな環境変化はなく、ここ数か月はずっと同じような状態が続いている。これからも当分は同じような状況が続く。
	変わらない	コンビニ（エリア担当）	・原材料費高騰による価格上昇のため、消費者の節約志向はますます高まり、このままの状況がしばらく続く。
	変わらない	衣料品専門店（地域ブロック長）	・春物から初夏物への動きがずれ込んでいて、そのまま売場で春物の在庫が圧迫し、夏物に影響が出る。
	変わらない	衣料品専門店（地域ブロック長）	・スーツ販売客数が急激に伸びることはない。
	変わらない	家電量販店（店長）	・これからエアコンの季節になるが、単価の安い商品は動くが、高額商品の動きはない。
	変わらない	乗用車販売店（統括）	・販売台数ではこの何年間前年割れが続いており、将来も良くなる材料がない。
	変わらない	乗用車販売店（販売担当）	・暫定税率の問題など、政治の先行不安が、消費者の購買意欲を盛り上げない。
	変わらない	自動車備品販売店（経営者）	・部門的に見ても好調な部門や不調な部門があり、全般は辛うじて前年を上回るような動きが続いているが、これも販促の効果でしかなく、景気全般の好転によるものではない。このような一進一退の動きが続く。
	変わらない	高級レストラン（スタッフ）	・予約状況は月によって、良かったりそうでもなかったり差が大きく、平均すると前年並みである。
	変わらない	一般レストラン（経営者）	・フラワーフェスティバルの最中は伸びるが、一時的なもので長期的には今の傾向が続く。
	変わらない	その他飲食〔ハンバーガー〕（経営者）	・原材料の高騰により、値上げをせざるをえない状況がくる。ガソリンの再値上げもあり、外出、外食も控え目の傾向となる。
	変わらない	都市型ホテル（経営者）	・宿泊の予約数が前年同期との比較で、5%程度落ち込んでいる。
	変わらない	都市型ホテル（従業員）	・宿泊の予約状況は、4～6月まで前年並みとなっている。
	変わらない	通信会社（総務担当）	・契約者数増加のための好材料が見当たらず、このまま低い水準で推移する。
	変わらない	テーマパーク（業務担当）	・ガソリン税の問題の先行きも不透明で、車での来客が9割を占める当施設では多少の影響がある。少なくとも上昇する要素はない。
	変わらない	美容室（経営者）	・生活物資その他の高騰で、美容室関係が、この先良くなるとは思えない。
	変わらない	設計事務所（経営者）	・景気の先行き不透明で、消費者の動きも余り期待できない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		住宅販売会社（販売担当）	・物価上昇傾向により、客の家を建てようという意欲が低下しており、売上が増加しそうにない。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・値上がりや食の不安などのために、購買意欲が向上する可能性は少ない。
		一般小売店（経営者）	・政治不信も重なり、値上げも非常に生活を圧迫している。将来の不安感が大きく、消費意欲が鈍る。
		一般小売店〔印章〕（営業担当）	・仕入れ価格のアップにもかかわらず、商品の値上げは難しく、厳しい経営になる。
		百貨店（販売促進担当）	・食料品等の価格が上がり、賃金が上がらなければ、洋服・外食を控えるため、現在の食料品等の値上げが一段落するまで、洋服、外食の売上増は期待できない。
		百貨店（売場担当）	・6月上旬に、久方ぶりの大型郊外店が、近隣にオープン予定であり、しばらくの間は影響を受ける。
		スーパー（店長）	・今後も商品の値上げが続くなか、高齢者医療費の負担増や暫定税率の復活、原油の値上がりによる燃料の高騰などの外部要因も加わり、売上が増える状況にはない。
		スーパー（店長）	・商品の値上げがめじろ押しで、客の買い控えが予想される。
		スーパー（総務担当）	・食品では既に値上げ発表されたメーカーも多数あり、ガソリンも暫定税率の復活が見込まれているため、食料品の節約や買い控えと、来店頻度の減少は避けられない。
		スーパー（経理担当）	・このままでは先行きへの不安が広まり、客の消費もいよいよ停滞していく。
		スーパー（財務担当）	・価格の引上げが今後も続くものと思われ、消費者の買い控え傾向が強くなる。
		スーパー（経営企画）	・食品の値上がりにより一品平均単価は前期比102.26%となった。今後この傾向が続くと、家計は苦しくなり、消費は抑制される。
		スーパー（販売担当）	・バターの品不足、また海外での穀物の不足が伝えられており、今後商品の品ぞろえにどう響いてくるのか不安である。
		コンビニ（エリア担当）	・市場はオーバーストア気味に推移していながら、更に異業種の出店もある。この傾向はこれから速度を増し、更に悪くなる。
		コンビニ（エリア担当）	・ガソリン・食料品を始め、各種商品の値上げが考えられ、客はいろいろな部分で出費を抑えていく。
		コンビニ（エリア担当）	・収入が増えないなか商品の値上げが続き、多少不便でもスーパーやディスカウントショップを利用するなど、コンビニ離れが起こる。
		衣料品専門店（販売促進担当）	・昔からの客の購買頻度自体が減っていることが目立ち、いろいろな店を回ってどこで安く買えるか探す人が増えてきた。客の財布のひもはかなり固くなっている感じなので、まだまだ厳しい時期が続く。
		家電量販店（店長）	・諸物価の高騰が原因で、客の買い控えはこれからも続く。
		家電量販店（店長）	・諸物価の高騰により、商品の需要が冷え込む。北京オリンピックも中国の国内情勢が批判を浴びており、薄型大画面テレビ、DVDレコーダーなどの需要が思ったほど盛り上がらない。仮に盛り上がったとしても、単価ダウンによる販売額減は補えない。
		住関連専門店（広告企画担当）	・来客数が減少し、単価も上昇しない状況が続く。
		一般レストラン（店長）	・客単価の低下が続いているにも関わらず、原材料費の高騰が続くため、やむを得ず5月から一部値上げを余儀なくされている。一時的に客単価は上がるが、その後が心配である。
		一般レストラン（店長）	・来月、近隣に新規で複合施設が出店するのと、また暫定税率復活でガソリン代が値上げになるとのことで、来客数が減少する。
		都市型ホテル（スタッフ）	・食材の仕入れ価格の上昇により、飲食店では今後苦勞しなければならぬ状況が当分続く。かといって、値上げをすれば来客数の減少にもなりかねない。
		通信会社（企画担当）	・地方中小都市の客は、見通しが明るくなる施策などが現実に見えてこない、自力で現在の停滞感を打破、脱却することは難しい。初夏にかけてよいニュースは無い。
		通信会社（通信事業担当）	・様々な物の値上げが相次ぐなかで、月々の固定費用が掛かるサービスについての導入は、極めて慎重になっており、しばらくは様子見の状況が続く。
		テーマパーク（財務担当）	・ガソリン価格もまた値上げされ、物価上昇等の影響は無視できないレベルになることが予想されるため、来客数への影響は免れない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		テーマパーク（広報担当）	・客の構成が近場の住民にシフトしているが、人口集積が少なくいずれ頭打ちになりそうである。
		美容室（経営者）	・同業者間の話で、以前は「どここの店は忙しい」という話題があったが、最近は全くそんな話は出ず、どここの店も暇なようである。先行きが懸念される。
		設計事務所（経営者）	・所得の伸び悩みまたは減少状態が続く限り、回復の要素が見受けられない。
		設計事務所（経営者）	・建築基準法の改正により、プロジェクトが長期化しているなか、建設資材価格の高騰が続くので、事業計画が立ちゆかなくなっていく。
	悪くなる	商店街（代表者）	・商店街や業界の話聞いても、これからも良くなる要素がなく、不安な毎日を送っている。何か打開策が欲しいものである。
		商店街（代表者）	・物価の上昇、年金不安によりますます景気、特に地方の景気は悪くなりそうである。当然、商店街の景気も良くなるわけがない。
		一般小売店〔茶〕（経営者）	・世の中全体のムードが悪すぎる。税金・年金いろいろな面で問題が多く、特にお茶は年配の方が良く飲んでくれるが、その高齢者の消費動向がどんどん悪くなっていく。また、当社でも生き残りをかけて、海外へも進出しようとしているが、その時感じることは、日本と海外との景気の差である。日本にいと閉塞感を感じるが、海外特に東南アジアは明るく活発である。
		百貨店（売場担当）	・ファンド系大手靴問屋の民事再生法の影響もあって、国内主力メーカーの生産が落ちる。店頭売りの悪さも重なって、商品確保がますます困難になる。
		コンビニ（エリア担当）	・2月末くらいに、近所に新しい道が開通して車の流れが少し変わったようだ。そのためと、工事関係の客の減少で、これからも悪くなる一方となる。
		衣料品専門店（経営者）	・原油価格の高騰、物価の高騰により買い渋りが増える。
その他専門店〔布地〕（経営者）		・同じ商圏にある大型施設が、7月に大型増床してオープンする。そのため、小売業全体の売上が減少する。	
その他専門店〔書籍〕（従業員）		・更なる出店競争がある。需要は増えないが、供給する側が増え続けている。	
住宅販売会社（従業員）		・来場する客の反応が悪化してきているので、今後も受注減は避けられない。	
企業 動向 関連	良くなる		
	やや良くなる		
	変わらない	窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	・大口案件は年内一杯の計画生産であり、このため現在の生産水準は当面継続する。
		鉄鋼業（総務担当）	・アジアを中心に、世界規模で需要は引き続き堅調に推移するものと予測している。生産面については、フル操業が見込まれるが、過去に例をみない原材料高のために、顧客に鋼材価格の大幅な改訂のお願いをしなければならなくなるなど、収益面では予測できない状況である。
		金属製品製造業（総務担当）	・更なる原材料価格の上振れ懸念があり、秋には客へ再度値上げ交渉を行わなければならない可能性も残している。客の受注動向、為替など読みきれない面も多いが、2～3か月先はこのまま推移していく。
		一般機械器具製造業（経営企画担当）	・長期にわたり国内市場の悪化が続いており、売上の減少は当面続く。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・先行き明るい様子がみえてこない。エアコンも生産が減少する時期にあたり、人員削減も視野にいれる必要があるようである。
		建設業（経営者）	・先月は改正建築基準法の関係等で、落ち込んだものが若干改善されるのではないかと見込んでいたが、それとは別に、ガソリン税等の問題で、公共事業等のこれからの動向が大変悲観的にならざるをえない。今後もこのまま悪いままに推移してしまいそうである。
		通信業（部門長）	・製造業や運輸業においては、5月初めの暫定税率の如何によって、業績が大きく左右され、これによっては通信業界においては、多少の買い控えがある。
		通信業（営業企画担当）	・法人向けサービスの商品種類は最近大きな変化がなく、顧客側にとってもNGNや次世代モバイル系サービスなどの方向を見定めたいとの意向が働いており、積極的なシステム更改等は当面期待できない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金融業（業界情報担当）	・米国経済は減速しているが、欧州・アジア圏では引き続き堅調で、当面は高水準の受注を維持する。
		不動産業（総務担当）	・来客数及び成約数は、ほぼ横ばいとなる。
		会計事務所（職員）	・公共事業関連は相変わらず不振だが、企業は諸経費を絞るなど、悪いなりに対応している。売上高が伸びるといった明るい見込みはないものの、悲観的になるような悪い要素も見当たらない。
	やや悪くなる	食料品製造業（総務担当）	・ものづくりのなかで、光熱費の上昇と原材料費も掛かりすぎており、更に急騰する可能性もある。大変不安である。
		化学工業（総務担当）	・他企業の動向も先行きが見えず、債権管理に以前より注意するようになってきている。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・クライアントに自動車関連の企業が多いため、最近の円高、またガソリン代の再値上げなど、生産台数が下降するのではないかと思われ、受注も下降する。
		輸送用機械器具製造業（経理担当）	・特に北米での自動車販売台数が減少しており、開発スケジュールに関して、延期・中止が多少発生している。
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	・受注量・生産高共に横ばいの状況が続くと思われるが、原材料価格の上昇、特に鋼材、あるいは材料持ちの外注費などの高騰が予想され、また人件費負担や為替の動向など不透明な要因をかかえ先行きは大変懸念される。
	悪くなる	建設業（総務担当）	・鋼材を中心とした資材の値上がりがある。
		金融業（営業担当）	・土木建築業関係は、公共工事の受注の関係もあり、これからますます悪くなり、資金繰りが悪化して倒産する業者も出る。設備投資まで手が回らず、機械類を買うにも中古品に目が行き、その取り合いである。最終的には、体力のあるところは生き残るが、その他のところは淘汰されていく。
雇用関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（担当者）	・内定者の歩留まりに不安感があることから、新卒採用について追加の対策を考える会社が多い。
	変わらない	人材派遣会社（支店長）	・5月度の登録者数予約が、対前年と比べ余りそん色がない。
		職業安定所（職員）	・新規求人数は減少しているが、これは派遣求人の適正化によるものとみられる。今後の求人数の増減は不透明である。
		学校〔短期大学〕（就職担当）	・求人件数については昨年と変化がない。今後に期待をしたい。
	やや悪くなる	人材派遣会社（営業担当）	・社会保険料負担の増加や広告費の上昇により、企業の経営環境が厳しくなり、求人にも影響が出る。
		職業安定所（職員）	・原油価格高騰の影響で材料費が上がるなか、即販売価格に転嫁できない事情もあり、今後の対応に頭を悩ませている企業が数多くあり、結果として求人意欲が冷え込みつつある。
		民間職業紹介機関（職員）	・技術系や医療系の人材の求人は相変わらず多いが、母集団がもともと少ないために、全体への影響は少なく、その他の正社員での求人数が、前年同期より20%前後減っている。
	悪くなる	-	-

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連	良くなる	家電量販店（店長）	・8月に開催される北京オリンピックに向けて、AV機器の動きが活発になる。
	やや良くなる	その他専門店〔酒〕（経営者）	・当業界は、春から夏にかけて、これから3か月間は大変良く売れる時期なので良くなる。
		旅行代理店（従業員）	・シルバー層を中心に、個人の旅行需要はおう盛である。これから旅行シーズンに入ってくるので販売量は増加していく。
	変わらない	一般小売店〔酒類〕（経営者）	・ガソリン・食品などの物価が上昇するなか、消費する気分になることは考えにくい。
		百貨店（売場担当）	・クールビズも定着してきており、気温が高くなれば少しは活気が出てくるかもしれないが、必要最小限の購買が顕著な現状を考えると、あまり期待できない。
百貨店（営業担当）		・日により繁閑の差が大きく、ファッション商品は相変わらず当用買いに終始している。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由		
		スーパー（店長）	・身近な日用食材の物価上昇の話聞くことが増えたが、そのことで、今後さらに景気が悪くなるという実感は無い。		
		スーパー（企画担当）	・原料の高騰により、消費者は買い控えなどの慎重な行動になるものと思われる。		
		衣料品専門店（経営者）	・3か月後にはボーナスの時期になるが、現在の客の動きはこのままで推移すると思われる。		
		家電量販店（営業担当）	・家計に直接響く新生活対応商品の購入が多くなる時期であるが、買い控えを助長する要因が、例年に増して多くなっている。		
		乗用車販売店（従業員）	・良くなる要素が、見当たらない。		
		乗用車販売店（営業担当）	・3月後半～4月にかけての動きが、例年と違った動きになっている。特に今後良くなるというような見方はできない。		
		乗用車販売店（管理担当）	・物価高騰により、車購入にまで資金が回らないことが懸念される。		
		観光型旅館（経営者）	・旅行に関して、5月の連休の動きは悪い。良くはならないが、急激に悪くもならない状態が続く。		
		タクシー運転手	・ゴールデンウィークもタクシーの利用に期待できない。		
		タクシー運転手	・梅雨時期の乗車数はあるが、単価の上昇はないので変わらない。		
		通信会社（管理担当）	・業界の再編及び販売方式の変更等により、業界全体が活性化される可能性はあるが、端末等販売量が大きく動くことは想定しにくい。		
		やや悪くなる		商店街（代表者）	・消費が浮上する要素が全く見当たらない。
				一般小売店〔生花〕（経営者）	・今年は、「母の日」の注文が入るのも遅く、数量も少ない。同業者との間では、あまり期待できないと話している。
				百貨店（営業担当）	・4月に必需品を買いだめするという傾向の余波を受け、売上が伸びず、今後さらに景気は悪化すると思われる。
百貨店（販売促進担当）	・商業施設の新規オープンの影響が懸念される。				
スーパー（店長）	・ガソリンの再値上がり影響して、景気の後退もあると思われる。				
スーパー（財務担当）	・エネルギーや穀物の高騰が消費活動に影響を与えと思われる。				
衣料品専門店（経営者）	・フリー客への売上のウエイトが下がってきており、常連客の単価も低下傾向にある。衣料品販売は、苦戦が予想される。				
乗用車販売店（従業員）	・再度ガソリン税が加算され、ガソリン価格が大幅にアップするれば景気が悪くなり、非常に厳しくなる。				
一般レストラン（経営者）	・5月になりガソリン価格が元に戻った場合、さらに購買意欲が抑制される。				
一般レストラン（経営者）	・飲食業の場合、ほとんどの材料が値上がりしているが、客離れを懸念して、価格に転嫁できない。				
都市型ホテル（経営者）	・最近、近場の方の車による来客が減っている。その上、来月早々にガソリン価格が上昇するというので、先行きの予約状況が良くない。				
タクシー運転手	・5月に入って、いろいろなものが値上げになり、節約のため、ますますタクシーを利用する客は減ってくると思われる。また夏場は、四国八十八箇所のお遍路が無いので、どこまで悪くなるか不安である。				
観光名所（職員）	・ガソリンの値上げ等で、個人客の車での来客が減ると思われる。				
設計事務所（所長）	・建設会社の低価格での入札が多くなってきている。				
悪くなる		商店街（代表者）	・郊外店のオープンで来街者は必ず減る。ガソリン・物価の上昇と重なり、当面は良くなる材料が無い。		
		一般小売店〔乾物〕（店員）	・保険料の引上げ、ガソリンの値上げなど、消費に回ってくるお金が少なくなってくる。		
		一般小売店〔酒〕（販売担当）	・地方では給与ベースアップが、物価水準上昇に追いついていないため、外食を含むアルコール飲料に回せるお金が削減されている。		
		スーパー（店長）	・景気に影響するほどの値上がりとなっており、売上が伸びない。		
		スーパー（店長）	・小麦、原油、雇用保険料などの価格上昇と、県の雇用状況からみて、さらに売上は低下していく。		
		スーパー（統括担当）	・これだけ給料が上昇せず、物価だけ上昇すると景気は悪くなる。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		衣料品専門店（経営者）	・ 暫定税率復活によるガソリン価格の上昇などで物価が上がっているため、買い控えがある。
		美容室（経営者）	・ 暫定税率が再度復活する動きや、粉物などの物価高のため、消費意欲の衰退が進んでいる。
		設計事務所（職員）	・ 道路特定財源問題が長期化、または未解決で推移しそうであり、今後さらに悪くなる。1次産業と建設業が基幹産業となっている地方経済はさらに悪化し、景気浮揚の兆しも見えない。
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	電気機械器具製造業（経営者）	・ 製菓関係、化粧品関係業務の見積もりを海外の企業に出しており、2、3か月先には受注ができるだろうと予測している。
	変わらない	繊維工業（経営者）	・ 小売店からの引合いは増加傾向にあるが、売上が増加しても原材料、加工賃の高騰により利益確保が難しくなっている。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・ 新年度に入り、国からの受注も予想される。海外向けの商談成立も期待しているが、量的アップは望めない。
		通信業（支店長）	・ 受注量が、急激に回復する要素が見当たらない。
		通信業（営業担当）	・ 今年のゴールデンウィークは、安・近・短のレジャー・旅行ばかりで、ガソリンが安いうちに近場で済ませるなど、楽しい話題が少なく、個人消費が大きく拡大すると思えない。
	やや悪くなる	一般機械器具製造業（経理担当）	・ 改正建築基準法がまだ影響しており、レンタル業界の引き合いは非常に少なくなってきた。この傾向は、7月ごろまで続くとの見方が多い。
		不動産業（経営者）	・ 取引先、銀行員との話の中で、銀行も、住宅ローンや融資による破綻等を懸念して、審査も厳しくなっているとこのことで、不動産業界に関しては、先の見通しが暗い。
		広告代理店（経営者）	・ 県の印刷業界に明るい話題が少ない。中堅印刷会社の倒産など、業界自体の冷え込みが企業を直撃しつつある。
		広告代理店（経営者）	・ 原価高騰等により経営が厳しいと予測して、得意先からテレビ広告等のレギュラー契約金額削減の依頼がある。
	公認会計士	・ 関与先企業からの融資の相談が急増している。各企業が資金繰りに窮しており、景気は悪化する。	
悪くなる	建設業（総務担当）	・ 資材の高騰が見込まれ、収益を確保することは困難である。	
雇用 関連	良くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・ 当社の新規媒体投入で市場が活性化しており、特に5月からの3か月間は良くなる。
	やや良くなる	-	-
	変わらない	求人情報誌製作会社（従業員）	・ 昨年と今年の1～4月の求人数を比較すると、ほとんど変化が無いので、今後2～3か月間も変わらない。
	やや悪くなる	民間職業紹介機関（所長）	・ 利益面につながらない広告費・接待費等の管理経費を切り詰めている企業が増えている。
	悪くなる	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・ 広告だけで冷えた消費を回復できないため、各企業は今以上に守りの経営に向かう。
職業安定所（職員）		・ 求人倍率は、この3か月で0.21ポイント低下しており、この傾向を改善する要因が今のところ見当たらない。	

10. 九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	コンビニ（エリア担当・店長）	・ 5月1日から熊本県でたばこの成人識別が始まるので、たばこ販売の伸びが期待できる。それに伴った衝動買いで、客単価が伸びることが期待できる。
		乗用車販売店（管理担当）	・ 5月に新型車が出るので、今より少しは客の関心を引ける。景気は今よりはやや良くなるが、景気が水面に出るといっほどではない。
		観光型ホテル（営業担当）	・ 団塊世代の影響か、還暦同窓会・古希同窓会等の宿泊予約が目立っている。また、季節的に近県の老人クラブからの問い合わせも増えている。5、6月の修学旅行の需要も前年より増加傾向にあるため、良くなる。
	変わらない	一般小売店〔鮮魚〕（店員）	・ 先週からうなぎを焼いて売り出したが、今のところは順調だ。金額の問題はあるが、本当においしいものであれば売れる傾向にある。
百貨店（売場主任）		・ 原油、食料品の高騰や高齢者医療問題等、社会全体にある先行き不透明感が払拭されない限り、消費は活性化しない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（営業担当）	・日常的な食品や全店の買上単価は前年実績を維持しているが、先行きの不安材料が多く、消費意欲が減退している。買物への慎重な姿勢がより強くみられ、早急な好転は期待できない。
		百貨店（営業担当）	・一時的に消費が戻っているが、ガソリン再値上げを含む日常品の価格高騰が消費の足を引っ張るため、今後大きく回復することは難しい。
		百貨店（売場担当）	・同業他社は軒並み前年割れである。大型商業施設については、駅前の店舗は健闘しているものの、別の大型店は苦戦しており、明るい兆しはない。ガソリン高騰、物価高、可処分所得の減少などの将来不安が消費者の購買意欲に影響を与えている。特に当地は県民所得があまり多くないため、消費が伸びる要素がない。
		スーパー（総務担当）	・衣料品、住居用品については前年割れが今後も続く。唯一前年をクリアしている食品も、価格訴求の取組でやっと前年実績をクリアしている状況である。今後もこのような状況が続く。
		衣料品専門店（店員）	・7月はセール時期に入るが、物が動かずセールを待つ客がかなり増えている。セールでも必要なもののみを購入し、まとめ買いは少なくなる。ユーロが高く、輸入品は仕入価格が下げられない一方で販売価格も上げられないという板挟みとなっており、大変厳しい状況である。政策的に財布のひもが緩むような状況を作ってもらわなければ、商品努力だけでは厳しい。
		衣料品専門店（店員）	・色々なものが値上がりして生活が苦しくなっているため、消費者は洋服の購入を我慢する。特に子育て世代の30代は厳しい。
		家電量販店（店員）	・北京オリンピック開催まで100日を切り、薄型テレビ等の耐久消費財がもっと売れなければいけないが、現時点では伸び悩んでいる。チベット問題の影響や、原油高に伴う食品の値上げもあり、消費が頭打ちになっている。この傾向は2、3か月後も変わらない。
		家電量販店（企画担当）	・主力の液晶テレビ、デジカメ、DVDプレーヤーなどの売上がやや停滞している。この傾向が今後も続く。
		乗用車販売店（従業員）	・新型が出る予定がないため、今後6か月間は苦しくなる。
		乗用車販売店（販売担当）	・販売量が伸びない状況が今後も続く。食品等の物価の値上げが起る中で、自動車等の耐久消費財の購入はしばらくは見送られる。
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・生豆の仕入れ価格が昨年未より若干上がっている。売価に転嫁せざるを得ないが、一般消費者のコーヒーのニーズは相変わらず高く、横ばいか若干上向きで推移する。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	・5月の燃料油の仕入れ価格は値上げが予想されている。小売価格も値上げせざるを得ず、近年にない高価格となる。石油業界ばかりでなく、関係ある業界への影響が懸念される。
		スナック（経営者）	・客は外食を1軒で済ませているようで、当店のような2軒目、3軒目の店まではなかなか足をのばさない様子である。
		都市型ホテル（副支配人）	・4月から、リネン等も含めてすべての仕入れ単価が上がる一方、客単価はダウンしている。利益率が下がった状態がしばらく続く。
		旅行代理店（従業員）	・5、6月の国内旅行はやや盛り返してきている。特に関東、関西のテーマパークが好調である。一方、海外旅行は引き続き低迷している。
		テーマパーク（職員）	・ゴールデンウィーク期間も休日の日並びが悪く、5月3、4日以外は空きがある。第1四半期の見込みでも伸びがみられない。
		観光名所（職員）	・ガソリンの値上げ等があるため、景気自体は良くなるはない。NHK大河ドラマの影響がいつまで続くのか心配である。あと2、3か月は大丈夫だが、それ以降が気がかりである。
		美容室（店長）	・来客数が増えないので、パートの出勤を交代制にし、出勤日数を減らして売上減少に対処している。この傾向が今後も続く。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・ガソリンの値上げと、高齢者の医療制度の影響で、高齢者の買い控えがある。
		商店街（代表者）	・ガソリン暫定税率やアメリカ景気の低迷等の様々な問題から、客の買物は伸び悩む。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔青果〕 (店長)	・購買心に影響している不安材料が具体的に解消されない限り、今後も厳しい。今年は猛暑が続くと予想されているため相場もかなり高騰しそうであり、厳しい状況が続く。
		百貨店(販売促進担当)	・4月に競合店が開業し、当店の客がそちらに足を運ぶようになった。来客数が減り、購買数も減ってきている。この傾向が今後も続く。
		百貨店(業務担当)	・これから夏場に向けて春夏物の需要はピークを迎える時期だが、その動きが弱い。もうしばらく経つとクリアランス待ちの状態となる。建値で売れる時期に消費が向上しないと、処分期だけでは売上、利益ともに上がらない。
		百貨店(売場担当)	・ガソリン、電力、ガスが値上がりし、客の使えるお金が減っている状況であるため、今後は悪くなる。
		スーパー(店長)	・ガソリンの暫定税率の問題でまた物価が上がったようであり、5月からの景気動向はマイナスになる。
		スーパー(店長)	・特売日への集中度が高まっている。今後ガソリン価格の上昇等が現実になると消費全般への引き締めが予測される。支出頻度の高い食料品も例外ではない。
		スーパー(企画担当)	・ガソリンや電気、ガスの値上げに加え、順次展開される食品の値上げ等を背景に消費動向は徐々に冷え込み、その最も影響を受ける日用品を販売する小売業界、特にスーパーマーケットはボディーブローのように苦戦を強いられることになる。
		スーパー(経理担当)	・政策の先行き不透明感による買い控えや、さらなる原材料の値上げ等で、消費意欲が減退する。
		コンビニ(エリア担当)	・タスポカード導入によって来客数が増加し、他の商品の売上も良い。しかし、今後公共料金や商品の原材料高騰の影響で買い控えが出てくることを心配している。
		コンビニ(販売促進担当)	・6月からまた原材料、小麦粉の値上げがあり、10月にまた再度値上げがある。ガソリンも30円程度の値上げが見込まれ、他の食料品の値上げもある。こういったなかで、パンは100～130円という売れ筋ゾーンで新製品を出しているが、値上げの影響から今後は若干買い控えが出る。
		衣料品専門店	・今月は年金の支給月であるにもかかわらず、高齢者の医療制度の保険料天引きで衣料品の購買意欲が非常に減退している。この傾向は今後も変わらない。
		衣料品専門店(総務担当)	・来客数が減少しており、現状では底が読めない。
		家電量販店(店長)	・ガソリン価格の高騰等から、当面景気は良くならない。
		家電量販店(店員)	・オリンピック需要が盛り上がりと思っていたが、それ以前の問題で地上デジタル放送の普及がまだ不十分である。単価がもっと下がらないと需要の喚起にはならない。ガソリン価格が上がるため、消費者の動向は非常に悪くなる。
		住関連専門店(経営者)	・大型連休以降の夏場は消費が買物からレジャーに以降するため荷動きが悪い。さらに諸物価の値上がりや建築確認申請の遅れ等もあり、先々の景気の見通しは厳しい。
		住関連専門店(店長)	・これからガソリン価格の上昇等があるため、客の動きが悪くなる。
		高級レストラン(経営者)	・ガソリン等の価格高騰に加え、接待需要の減少もあり、厳しい状況となる。客に案内を出したり、外食以外の商品も開発し販売しているが、なかなか厳しい状況が続いている。
		高級レストラン(経営者)	・毎年、ゴールデンウィークは定休日を変更して臨時に営業していたが、今年は予約が少なく、5月5日の定休日は休むことになった。景気は良くない。
		タクシー運転手	・例年と違い個人客が少なく、団体客ばかりが目につく。今後もあまり期待できない。
		タクシー運転手	・今後は値上げ、可処分所得の減少から、消費が伸びる要素はなく、マイナスになる。
		通信会社(総務担当)	・原油高、ガソリン代の高騰等で住宅着工件数が伸びず、景気はやや悪くなる。
		通信会社(業務担当)	・5月はキャンペーンなどのイベントもなく、新商品待ちでの買い控えが発生し、需要が大きく落ち込む。
		ゴルフ場(従業員)	・ゴルフ場が郊外にあるということもあり、ガソリン価格の問題が来客数に影響することを懸念している。ゴールデンウィークの予約状況も例年より1割ほど少なく、厳しい状況である。
		競輪場(職員)	・来客数は前年を上回っているが、1人当たりの発売額は10%程度減少している。この傾向が今後も続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		住宅販売会社（従業員）	・決算時期にもかかわらず、不動産仲介の問い合わせや成約がない。原材料価格の高騰から企業の決算も減収減益と先行きも不透明であるため、不動産投資は伸びない。景気は悪くなっている。
	悪くなる	商店街（代表者）	・日用品やガソリンが値上がりするため、個人消費は伸び悩む。景気が良くなる理由がない。
		百貨店（営業担当）	・年配客が、今後の生活の不安から貯蓄に向かっており、財布のひもがますます固くなる。
		百貨店（営業担当）	・5月からガソリンが値上げされ、付随して電気・ガス代の値上げがある。その他の商品の値上げについても客は熟知している。売上は非常に厳しくなる。
		百貨店（販売促進担当）	・完全にダウントレンドに入っている。物価が上がり、給料据置きといった状況や、ガソリン問題など購買心理を圧迫する話題がめじろ押しである。客からは、例年夏に向けて開放的な気持ちになるところが、今年は全くなれないとの声が聞かれるほどである。
		スーパー（店長）	・競合店の出店が激しくなり、ガソリン、油、小麦粉等の値上げなどもあるため、一層悪くなる。
		スーパー（店長）	・今後も原材料費の高騰等による物価の上昇が予測され、消費者は今後ますます購買に慎重になる。売上は非常に厳しくなる。
		衣料品専門店（店長）	・暖かくなり、夏物の洋服が売れそうであるが、客の買物にあまり季節感がなくなり、価格にも敏感になってきている。ぎりぎりまで待って、それでも必要なら買うといった状況になる。
		衣料品専門店（店長）	・4月も客足が商店街から遠のき、回復の兆しは依然としてない。生活関連各種商品の値上げがじわじわ浸透してきており、客は必要最小限のものしか買わない。この傾向が今後も続く。
		その他専門店〔書籍〕（店長）	・ガソリンがもう一度値上げされれば、今以上に家計の支出が抑えられる傾向が強くなる。世間一般の人の給与は上がらず、支出が増えれば確実に儉約に向かう。
		観光型ホテル（スタッフ）	・売上の主体となる婚礼において、向こう2か月の予約が予算比、前年比で大きく下回っている。また、一般宴会も前年を大きく下回っている。この傾向が今後も続く。
		都市型ホテル（総支配人）	・競合他社の新規出店情報が今後も数店舗ある。それに引き換え地域の市場がにぎわう情報は聞かれない。今後も厳しい状況が続く。
		タクシー運転手	・高齢者の医療制度、原油の高騰、物価の上昇が大々的に新聞やテレビで報道されていることもあり、皆お金を使えない状態になっている。景気は悪くなる。
企業動向関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	食料品製造業（経営者）	・例年、夏場は納入先の来客数が減少し、売上が低迷しており、今年は予約状況等から多少来客数が増加しているようであり、売上増に期待が持てる。
	変わらない	農林水産業（経営者）	・現状から大きく落ち込むことはないが、韓国での鳥インフルエンザの発生や、日本での白鳥の鳥インフルエンザの発生で、不安要素が出ている。必ずしも先行きは楽観できない。
		鉄鋼業（経営者）	・新規住宅着工戸数や着工床面積が改善し、販売量が回復してきた。しかし、これは着工が遅れていた物件が動き出したことによるものと、製品価格の先高感から早めの購入を行ったことによるものであり、需要が本格的に回復してはいない。原材料の高騰から製品価格は上昇の一途であり、建築コストの上昇から、消費者のマインドの変化による新規需要の減少が危惧される。
		建設業（総務担当）	・建設業の倒産が増えてきた。また、マンションは表向きは完売に見える物件もあるが、本当は大分売れ残っていると納入業者が伝えている。景気が悪いので、皆新築をちゅうちょしている。
		金融業（調査担当）	・製造業は、現在高水準で推移しているアジア向けの輸出が継続すれば、現在の状況を維持できる。
		金融業（営業担当）	・中小企業の大半の経営者は、積極的な投資は控え、状況を静観していく姿勢が見受けられる。
		新聞社（広告）	・不動産や流通業、小売業に新聞広告出稿につながる動きがみえず、今年度上期は苦戦を強いられる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	やや悪くなる	広告代理店（従業員）	・4月の新聞折込広告の受注量は、前年に比べやや持ち直ししてきた。ただ、地域の消費動向に活気が見られないため、この回復が来月も続いていくかは疑問が残る。新聞販売店でも、折込広告の落ち込みが経営を圧迫してきている。
		繊維工業（営業担当）	・原油の値上がりにより、資材、運送代等、色々なものが値上がりする。従業員の生活を圧迫する要因も多く、不安が増している状況である。
		金属製品製造業（企画担当）	・鋼材を始めとする原材料価格の更なる値上げ予想、原油関連の値上げ等のコスト圧迫要因がめじる押しであり、景気は悪くなる。
		一般機械器具製造業（経営者）	・原材料価格の高騰により、販売金額の折り合いが付きにくくなってきた。今後は厳しくなる。
		電気機械器具製造業（経営者）	・受注の見通しは、4～6月は全く反応がなく、停滞したまま進む。先行きにも明快な方向がなく、真っ暗なトンネルの中にいるような状況である。
		電気機械器具製造業（経営者）	・電磁部品関連、リードフレーム、コネクタ等の業界は、大手、中堅企業にかかわらずその都度の受注の確保に精一杯で、先行きが読めない。また、半導体関連、一般機械の精密機械部品も同様の傾向にあり、受注状況の波が大きい。こうした状況が今後も続く。
		輸送業（従業員）	・物が値上がりする前は駆け込み需要があるが、様々な物が値上がりし給料が上がらない現状では、物が売れず景気の下冷えが続く。
		輸送業（従業員）	・3月は4月からの値上がりを見越した出荷が増え、取扱量が一時的に増えたが、4月に入りその反動もあって極端に荷動きが悪くなっている。4月上旬はその反動を予測できたものの、4月末になっても回復していない状況である。暫定税率の恩恵も1か月間に留まりそうであり、先行きが不安である。
		輸送業（総務担当）	・商品の値上げが多くなり、消費が落ちるため、今より悪くなる。
		通信業（経理担当）	・諸物価の値上げや高齢者の医療制度による消費者心理の悪化は、今後買い控えといった形で現れる。さらに、ガソリン暫定税率の復活が拍車をかける。
		不動産業（従業員）	・商業施設の売上が横ばいから微減で推移している。この傾向が今後も続く。
		その他サービス業〔物品リース〕（従業員）	・取引先の中小企業のほとんどが原材料高騰などによるコストアップで収益の厳しい状況にあり、現状をいかに打破していくかという足元にとらわれている。先の設備投資への意欲は少ない。
			悪くなる
建設業（従業員）	・見積案件はあるが、なかなか成約には結び付かない。マンション等の大型物件も飽和状態になってきて、小ぶりのものしか受注できない。ガソリン暫定税率の廃止により、公共工事の入札にも影響が出てくる。		
金融業（得意先担当）	・得意先に建設業の割合が多いが、今後、工事が少なくなる時期を迎えると、さらに倒産が増える可能性が高く、景気は悪くなる。		
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・中元時期での求人が多くなるとは思うが、常用雇用での見込みは依然として厳しい。企業によっては、人員削減をしている業種もある。
		職業安定所（職員）	・新規求人数が前年と比較し減少傾向にある。ここ数か月続いている現象であり、主な要因は景気の先行き不透明感による求人の手控えである。各産業共に受注量や業務量が減少しているわけではないが、増員するまでの余裕はないといった状況のようである。この状況が今後もしばらくは続く。
やや悪くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・諸経費がこれから増えるが、中小零細企業で価格転嫁ができないところは、人件費を抑える可能性が出てくる。改正パート労働法の影響は今のところみられないが、短時間労働者の解雇、又は正規社員の切替えなどが行われる可能性がある。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		新聞社〔求人広告〕 (担当者)	・例年に比べ新聞の求人が減っている。採用側も物価上昇などで人件費を含めた経費を抑えているようだ。この傾向が今後も続く。
		職業安定所(職員)	・大きな人員整理の情報は今のところないが、今後、原油など資材価格の高騰などによる企業収益への影響などが考えられ、全体的に下降傾向になる。
		職業安定所(職員)	・良くなる要因が見当たらない。IT関連製造業で希望退職者の募集がみられ、これから厳しくなっていく。
		民間職業紹介機関(職員)	・原油の高騰により各種メーカーが設備投資を抑制しており、社員の増強にも陰りが見え始めている。特に食品関連は、企業の規模を問わず打撃が激しく、求人数に大幅な減少がみられる。この傾向が今後も続く。
		民間職業紹介機関(社員)	・第1四半期は人の動きが一段落する時期である。ここ1～2年活発な人の動きがあった金融機関も、今年は直接雇用化がさらに進展するため、求人数は抑制される見込みである。一方で、紹介予定派遣、紹介事業は採用活動に掛かるコストを抑える目的もあり、今後も成長が見込まれる。
		学校〔大学〕(就職担当者)	・採用規模の大きい企業の求人活動が山場を越え、今後は地場・中小を中心に求人活動が活発に展開されるが、景気の先行き不透明感を理由とする採用規模の見直し・抑制が懸念される。
	悪くなる	人材派遣会社(社員)	・造船業界などは好景気との噂を聞くものの、その他の業種の伸びは鈍化している。派遣業界も長期の新規案件が少なく、派遣料金を抑えられるため十分な利益確保が難しい。人材確保も難しく、募集経費が掛かる状況である。
		民間職業紹介機関(支店長)	・第1四半期の人材需要予測が、熊本(半導体関連)、大分(自動車関連)以外で前年割れの状況である。客の採用に対する姿勢が非常に慎重であり、人材需要が広がりを持っていない。この傾向が今後も続く。

11. 沖縄(地域別調査機関：(財)南西地域産業活性化センター)

(- : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	スーパー(経営者)	・あらゆる商品で依然として値上げが続いており、客の買い控え傾向も着実に現れている。今後、ガソリン価格等の値上がりもあり、当面このような状況は続く。
		コンビニ(エリア担当)	・売上前年割れの要因である客数減は落ち着きつつあるが、新たに買い控えというマイナス要因が重なるため、売上増の見込みは少なく、前年水準を維持するのがやっとであり、この傾向は続く。
		衣料品専門店(経営者)	・前年と比べて、全体的に点数、来客数、単価共に1～2割ほど上がってきている。しかし、もう少し様子を見る必要がある。
		その他専門店〔楽器〕(経営者)	・ゴールデンウィークに期待しているが、いろいろな物が値上がりしているので従来の観光客数の確保に不安がある。
		観光型ホテル(営業担当)	・弊社だけでなく近隣ホテルともゴールデンウィークの予約状況は厳しいが、月全体では目標を達成する見込みである。
		観光名所(職員)	・原油高に伴う航空運賃、諸物価の高騰により、沖縄観光は厳しい状況が予想される。しかし、沖縄への好感度の持続、また沖縄がこれから夏本番を迎え、海に関するイベントが実施されること等から、前年度並みの入域観光客数は維持できる。
		ゴルフ場(経営者)	・引き続き低料金による集客が続き、来客数自体は増加するが、売上では変わらない。
	やや悪くなる	コンビニ(エリア担当)	・買上点数の伸張がみられず、単価が割れ始めている。
	家電量販店(総務担当)	・生活必需品の値上がりやガソリン価格の値上げは、耐久消費財や娯楽的商材の消費を削ることにつながる。	
	観光型ホテル(商品企画担当)	・4～6月の稼働率は前年が78%、今年の見込みは約75%となり、3%ほど前年を下回る見込みとなっている。直前の1～3月までの累計は前年を上回っていた状況であった。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	悪くなる	商店街（代表者）	・市場の中心商店街と呼ばれるエリアでは、商売の形態が観光土産と飲食店が多くなっている。販売量は沖縄全体としては伸びていると推定されるが、こと中心商店街と呼ばれるエリアでは同業者が多くなってパイを奪い合い、販売額の低下と客割れを起こしている。日常生活品は郊外で買われる。
		その他専門店〔書籍〕（店長）	・売上が見込める作品がほとんど無い上に、価格も若干ではあるが上がる為、より一層厳しくなる。また、レンタルコミックなど新たな分野の進出によりコミックの売上もあまり見込めない。
		その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	・ガソリンの値上げと連動して来客数が落ちているので、再度大幅な値上げがあると地元客の来客数が大幅に落ち込む。
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	建設業（経営者）	・完成見学会等のイベントの来場者数が増え、引き合い件数が増えてきている。
	変わらない	広告代理店（営業担当）	・一言で、業界内の「パイの奪い合い」という状況になると想定される。官公庁関連事業や民間企業の大型プロジェクト等のトピックが見当たらないことから、景気が伸張するとは考えにくい。ただし、域外をターゲットとする、観光産業や健康食品産業といった業種が活性化することで景気へのプラス影響は多少ある。
		会計事務所（所長）	・物価が軒並み上昇していく状況から、一層の買い控えも進む。
	やや悪くなる	輸送業（代表者）	・公共工事の端境期であり、また鉄の急騰を中心とした原材料価格の一段の高騰により、工物件の低迷によって需要が落ち込む。
悪くなる	-	-	
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	学校〔専門学校〕（就職担当）	・業界により求人の増減の偏りがみられる。ただ、全体的にみると前年度との比較ではさほど増減は無い。
	やや悪くなる	人材派遣会社（経営者）	・沖縄観光に思ったよりも伸び悩み感が出てきている。また諸物価の高騰で企業の引き締めも大きく、今後の展開の様子見しながら経営している。派遣契約条件も企業によって更に厳しくなる。
		職業安定所（職員）	・観光産業は好調なようであるが、原油高・原材料の高騰による企業の収益環境の悪化、建築基準法の改正で建築確認の厳格化による着工の大幅な遅れから新規の民間住宅建設の急激な落ち込み、更に暫定税率復活後のガソリン価格の高騰予想で、軌道の無い当県で重要な役割の貨物運送業者の更なる収益の悪化、ガソリンスタンド業者間の価格競争で業績悪化、体力の無い零細事業所の倒産が懸念されている。
	悪くなる	-	-